

中国の人民公社化運動

外文出版社

北京

中国の人民公社化運動

外文出版社
北京

出版者のことば

中国の人民公社化運動の基本的な状況を紹介するため、
「中国共産党中央委員会の、農村に人民公社をつくる問題に
ついての決議」と、さいきん『人民日報』や『紅旗』誌に発
表された関係論文をあつめて、ここにおさめました。

目次

出版者のことば

中国共産党中央委員会の

農村に人民公社をつくる問題についての決議

人民公社の高まりを迎えて

..... (一九五八年九月一日第七号『紅旗』誌社説)二七

人民公社の赤旗を高くかかげて前進しよう

..... (一九五八年九月三日『人民日報』社説)二六

農業生産協同組合から人民公社へ

..... 吳芝圃
(一九五八年九月十六日第八号『紅旗』誌掲載) ... 三

河北省の人民公社運動

..... 林 鉄
(一九五八年十月一日第九号『紅旗』誌掲載) ... 三

「衛星」人民公社暫行定款(草案)

..... 六

人民公社をいかに設立するか

——「衛星」公社の定款にちなんで

..... (一九五八年九月四日『人民日報』社説) ... 一〇一

中国共産党中央委員会の

農村に人民公社をつくる問題についての決議

一九五八年八月二十九日

一、人民公社は、情勢發展の必然の趨勢である。大型の総合的な人民公社は、すでに出現しているばかりでなく、いくつかの地方ではあまねく發展をとげ、ある地方ではきわめて急速な發展をせしめている。おそらく、近いうちに、全国的な範圍で人民公社を發展させる高まりがあらわれ、その勢いはおしとどめることのできないものとなるであろう。人民公社の發展のおもな土台は、わが国農業生産の全面的なたえまない躍進と五億農民のますます高まりゆく政治的自覚である。經濟上、政治上、思想上で基本的に資本主義の道にうちかかつてのち、空前の規模をもつ農地の基本建設が進展し、水害と旱害を基本的に克服して農業生産をわりあい安定し

て発展させる新しい基礎がつくりだされた。右翼的な保守思想を克服し、農業の技術的措置の面で常套の慣行をうち破つてのち、農業生産の飛躍的發展という情勢があらわれ、農産物の收穫高が倍、数倍、十数倍さらには数十倍もふえ、人びこの思想解放がいつそう促進された。大がかりな農地の基本建設と先進的な農業の技術的措置はより多くの労働力の投下を要求しており、農村工業の発展もまた農業生産戦線からの一部労働力の配置がえを要求しており、わが国の農村の機械化と電化を実現する要求はいよいよさしせまつたものとなつてきている。農地の基本建設と豊作をかちとる闘いのなかで、組合と組合、郷と郷、縣と縣の境界をうちやぶる大規模な協力と、組織の軍隊化、行動の戦闘化、生活の集團化が大衆的な行動となり、五億農民の共產主義的自覚はいちだんと高まつた。共同食堂、幼稚園、託児所、裁縫班、理髮室、共同浴場、幸福院、農業中学校、紅專学校（訳注1）などは、農民をさらに幸福な集團生活へとみちびき、農民大衆の集團主義的思想をいちだんと培い、鍛えあげた。こうしたことは、すべて、加入農家数十戸もしくは数百戸の單純經營の農業生産協同組合ではもはや情勢發展の要求にこたえられないということを物語つている。当面の情勢のもとでは、農業、林業、牧畜業、副

業、漁業を全面的に發展させ、工業、農業、商業、文化・教育、軍專をたがいにむすびつけた人民公社をつくることが、農民を指導して社会主義建設の速度をはやめ、予定よりも早く社会主義を完成し、しだいに共產主義へ移行してゆくためぜひとも採用しなければならない基本方針である。

二、公社を組織する規模は、いまのところ、一般には一郷に一社、二千戸程度とするのがわりあい妥当である。面積がひろく、人家のまばらな郷では戸数を二千戸よりすくなくし、ひとつの郷にいくつかの公社を設けてもよい。地方によつては、自然の地形条件と生産發展上の必要にもとづき、いくつかの郷をあわせて一つの郷とし、これに公社をひとつ設け、戸数を六千から七千戸程度としてもさしつかえない。一万戸または二万戸以上にたつするものも、あながち反対するにはおよばないが、いまのところすすんでこれをよびかける必要はない。

人民公社がいつその發展をみる趨勢では、縣ごとに連合公社をつくることになるであろう。いまず、人民公社の分布について、縣ごとに計画をおこない、合理的に配置すべきである。

公社の規模が拡大してのちは、農業、林業、牧畜業、副業、漁業ならびに工業、農業、商業、文化・教育、軍事が総合的に発展するので、公社の管理機構も適宜に分担をきめる必要があり、組織を簡素化するとともに幹部を生産から脱離させないという原則にもついで責任を分担する部門をいくつかおかなければならない。なお、行政と社務の合体を實行して、郷の党委員会は公社の党委員会をかね、郷人民委員会は社務委員会をかねるものとする。

三、小さな組合が合併して大きな組合になり、これを人民公社にきりかえてゆくばあいのやり方と段取りについて。小さな組合が合併して大きな組合になり、これを人民公社にきりかえてゆくことは、目下のところ、廣はん大な大衆の共通の要求である。貧農と下層中農はこれをだんこ擁護しており、大部分の上層中農もこれに賛成している。われわれは、貧農と下層中農に依拠し、十分に大衆をたちあがらせ、大いに論議をくりひろげ、合併による大きな組合の設立とその公社へのきりかえに賛成する大部分の上層中農と團結し、他の一部の上層中農の動搖を克服し、地主、富農のデマと破壊をあばき、これを撃退して、廣はん大な農民が思想解放と自覚と自発的な意志を土台として合併による大きな組合の設立とその公社へのきりかえを實現する

ようにし、おしつけや命令によるやり方を防止しなければならない。段取りについて言えば、合併して大きな組合になり、これを公社にきりかえてゆくばあいは、もちろん一氣にやりとげるのにこしたことはないが、しかし一氣にやりとげられないばあいは、二つの段階にわけてもよいのであつて、無理をしたり、あせつたりしてはならない。各縣は、まずどこかで試験的に實行したうえで、しだいにおしひろめてゆくようにすべきである。

合併して大きな組合になり、これを公社にきりかえてゆくにあつては、かならず当面の生産と緊密にむすびつけ、たんに当面の生産に影響をあたえないばかりでなく、この運動を生産のいつそうの大躍進をおしすすめる大きな力とするようにしなければならない。このため、組合が合併した当初は、「上部を變動させても、下部は變動させない」という方法をとる。すなわち、まずもとの小さな組合が連合して大きな組合の管理委員会を選出し、機構を確立し、統一的に仕事の段取りの計画をたてる。もとの小さな組合を耕作区または生産隊にあらため、元來の生産組織と管理制度はしばらく変更せず、從來どおり経営をおこなう。そして、合併し調整すべきものと合併のさい解決すべき具体的な問題は、すべて、後日しだいに合併し、しだい

に整理し、しだいに解決してゆくようにする。これは生産に影響をもたらさないためである。公社の規模の大小、合併して大きな組合になり、これを公社にきりかえてゆくばあいの速度、そのやり方、段取りは、それぞれの省、自治区、直轄市がその地の状況にもとづいてみずから決定する。ただし、秋の收穫前または收穫後に合併するにしても、あるいは今年の冬か來年の春に合併するにしても、いまからすぐ、合併しようとする小さな組合の相互の連絡をとる、いつしよに相談しあい、秋の收穫後の農地の基本建設を統一的に計画し、來年度のよりいっそうの大豊作をかちとるようさまざまな準備を統一的にとのえなければならぬ。

四、組合を合併するさいの經濟政策上の諸問題について。組合の合併にさいしては、少数の組合が自己本位にはしり、合併をひかえて積立金をまつたく残さないか、わずかしが残さず、組合員への過分な拂戻もしくは全額拂戻をおこなつたりするようないか、教育をまつよめ、これを防止しなければならぬ。だが、他方では、それぞれの組合の基礎がおなじではないのだから、いくつかの組合が合併してひとつの大きな組合になるばあい、それぞれの公共財産、組合内、組合外の債務などがまつたくおなじではありえないということを心得ておかな

ければならない。合併にさいしては、幹部と大衆を共產主義の精神で教育して、こうした差異のあることをみとめるようにし、ことまかに算盤をはじいたり、過不足を調整したりするような方法はとらず、些細なことにこだわらないようにしなければならぬ。

人民公社をつくるばあい、自家用の土地、わずかの果樹、出資金などの問題はいそいで処理する必要はなく、明文で規定するにもおよばない。一般的にいつて、自家用の土地は合併のさい集團経営に移されることになる。わずかな果樹はしばらく私有のままにしておいて、ある期間たつてからあらためて処理してもよい。出資金はなお一、二年を経過して、生産が発展し、収入がふえ、人びとの自覚が高まるにつれて、自然に公有となるようにする。

五、公社の名称、所有制および分配制度の問題について。

合併して大きくなつた農業生産協同組合は統一的に人民公社と名づけることとし、国营農場とするにはおよばない。農場では、工業、農業、商業、文化・教育、軍事などの各方面をふくめにくい。

人民公社の成立後、集團的所有制をいそいで全人民的所有制にあらためてはならず、いまの

ところはまだ集團的所有制をとるほうがよい。こうすることによつて、所有制をあらためることに必要な面倒がおきるのをさけることができる。實際上、人民公社の集團的所有制のなかには、すでに全人民的所有制の要素が若干ふくまれてゐる。こうした全人民的所有制は不斷の発展中にひきつづき増大し、しだいに集團的所有制にとつてかわる。集團的所有制から全人民的所有制への移行は一つの過程であつて、地方によつては比較的にはやく、三、四年でおわることもあるが、地方によつては比較的におそく、五、六年あるいはもつと長い期間を要するところもある。全人民的所有制へ移行しても、国営工業とおなじように、その性質はまだ社会主義的のものであつて、各人はその能力に應じてはたらき、その労働におうじて報酬を受けとる。そのご、さらに何年か経過して、社会の生産物がきわめてゆたかになり、人民ぜんたいの共產主義的自覚と道徳的品性が大いに高まり、人民全体の教育が普及、向上し、社会主義の時期にはまだ影をとどめざるをえない旧い社会からの遺物である工業と農業との差異、都市と農村との差異、頭腦労働と肉体労働との差異がしだいになくなり、こうした差異のあらわれである不平等なブルジョアの権利の残余もしだいになくなり、国家の機能がただ外敵の侵略に対処

するだけで、内部にたいしてはもはや作用をはたさないようになれば、このとき、わが国の社会は、各人がその能力に應じてはたらき、各人がその必要に應じて受けとる共產主義の時代にいはることになるであらう。

人民公社の成立後、生産に不利な影響の生じるのをさけるため、元來の分配制度をいそいであらためる必要もない。具体的な条件をもととして、条件の熟しているところでは賃金制にきりかえてもさしつかえないし、条件がまだ熟していないところではなおしばらく元來の請負・報奨制度（訳注²）や基準作業量にたいする出來高拂いなど、労働日によつて報酬を計算する制度を採用し、条件が熟したのちにあらためてこれを変更するようにしてもよい。

人民公社の所有制はまだ集團的所有制であるが、分配制度は、賃金制であらうと、労働日によつて報酬を計算するばあいであらうと、いずれもまだ「その労働におうじて報酬を受けとる」のであつて、「その必要に應じて受けとる」のではない。しかし、人民公社は、社会主義を完成し、しだいに共產主義へ移行するうえでの最良の組織形態であり、これは未來の共產主義社会の基礎組織に発展するであらう。

六、いまの段階におけるわれわれの任務は、社会主義を建設することである。人民公社をつくるのはまず第一に社会主義建設の速度をはやめるためであり、社会主義を建設するのは共産主義へ移行するための準備を積極的にすすめることである。共産主義がわが国に実現するのにも、もはや遠い将来のことではないように思われる。われわれは人民公社の形態を積極的に運用して、共産主義へ移行する具体的な道をさぐりあてなければならぬ。

(訳注1) 紅とは共産主義的自覚をたかめること、専とは業務知識をふかめること。

(訳注2) 請負・報奨制度とは農業協同組合の生産隊が仕事に要する人力の提供、生産に要する費用の負担、生産高計画の完遂を保証し、これをりつばにやりとげた生産隊には現物あるいは現金による奨励をあたえる制度。

人民公社化の高まりを迎えて

(一九五八年九月一日第七号『紅旗』誌社説)

ことしの夏と秋の農業生産の偉大な勝利にともない、廣大な地域の農民はいちだんと組織化をすすめている。小さな組合を合併して大きな組合にするとともに、この農業生産協同組合を郷と一体となり、工業、農業、商業、文化・教育、軍事の一体となつた人民公社にきりかえようとしているのである。人民公社の設立は、全国的な範囲で新しいおしとどめることのできない大衆運動の潮流となつている。すくなくならぬ地方の農民はきわめて短期間に全縣の人民公社化を実現した。まだ公社化の実現していない地方でも、廣範な農民の積極分子が、秋の收穫前後に大衆の大々的な討論をくりひろげて人民公社を設立しようと、いまいろいろの準備をすすめている。すでに設立された人民公社は、大衆の生産意欲を發揮させ、労働力の利用率と労働

の生産性をたかめ、生産上の基本建設を拡大し、文化革命と技術革命をはやめ、公共の福祉事業を発展させるなどの面で、農業協同組合よりもいつそう大きな強味をしめしている。

廣範な大衆が人民公社の設立を熱烈に歓迎していることは、それが当面の情勢発展の必然的ななりゆきであることを物語っている。人民公社の発展のおもな土台は、わが国の農業生産の全面的なたえまない躍進と、五億農民のますます高まりゆく政治的自覚である。わが国の農民が経済、政治、思想の面で資本主義にうち勝ち、農業生産における右翼的な保守思想を克服してのち、空前の規模をもつ農地の基本建設が発展し、先進的な農業技術上の措置がこうじられた結果、農産物の收穫高は倍、数倍、十数倍さらには数十倍もふえた。同時に、農業生産のいつそうの発展をはかるため、また、農村にひろく工業を発展させ、工業と農業の結合をうながし、農村の人びとの生活水準を高めるため、農村（縣人民委員会の所在地や町をふくむ）の小型、中型の工業企業が急速に発展している。農村のこのような変化によつて、農民は、規模がわりに小さく経営種目もわりに單純なこれまでの農業生産協同組合の組織形態では、もはや生産力発展の要求に應じきれないと考えるようになった。じつさい、多くの地方の農民が大規模な水

利工事をおこし、土地を開拓し、植樹や造林をし、自然災害とたたかい、農業機械化や水力発電の事業をおこし、農村の交通や居住の條件を改善しようとするばあいには、すでに小さな組合や小さな郷の枠を打ちやぶらないわけにはゆかなくなつており、ときには縣の枠さえも打ちやぶらなければならなくなつている。それだけでは足りない。これまでの農業協同組合がたんに農業の面だけにたざさわつているのも、あきらかに時代おくれとなつている。農業協同組合は、農業、林業、牧畜業、副業、漁業などの総合経営の單位とならねばならないだけでなく、工業、農業、商業、文化・教育、軍事の統一した組織單位とならねばならない。また、郷人民委員会と公社が合体すれば、統一的な指導と社会的生産力の大々的な発展に有利なので、郷と公社とを分離する必要はまつたくない。労働力を十分にいかし、婦人をのこらず野良仕事にくわわらせ、男女の労働時間を無駄にしないためには、農業協同組合はたんに生産の組織者でなければならぬだけでなく、生活の組織者でもなければならず、また、たんに労働の集團化を一步すすめなければならぬだけでなく、生活の集團化をもおこなわなければならぬ。このようなきし迫つた要求のもとで、共同食堂、託児所、幼稚園、裁縫班その他がまるで雨後の竹の

子のようにあまねく発展してきた。すべてこうしたことは、これまでの農業生産協同組合がさらにすすんで人民公社となることを要求している。

農業生産協同組合が人民公社に轉じることは、たんに組織の規模と経営の範囲が拡大するということだけではなく、生産関係の重要な変革をもふくんでいる。多くの地方の人民公社——たとえば河南省遂平縣の「衛星」公社——では、すでに生産手段私有制のある種の最後の残りかすを一掃しただけでなく（集團労働の要求が日ましに高まつているし、共同食堂を全組合員が利用するようになっていたので、組合員が自家用の土地を自分で経営したり、豚を飼つたりすることは、もはや不可能でもあるし、不必要でもある）、いくつかの面では集團的所有制の枠をもつきやぶつている。このほか、公社内で食糧の給与制を実施するというような発展のなかにも、共産主義が芽ばえていることを容易に見いだすことができる。

もちろん、人民公社を設立するにあたっては、集團的所有制をただちに全人民的所有制にあらためる必要は決してないし、ましてや共産主義の低い段階である社会主義から共産主義の高い段階へと無理矢理につきすすむようなことはなおさらすべきではない。集團的所有制から全

人民的所有制への移行は一つの過程であり、地方によつてわりに早いところもあれば、わりに遅いところもあるであろう。全人民的所有制に移つてのちさらに一定の期間を経過すれば、社会的生産力がいつそう発展し、社会の生産物がきわめてゆたかになり、人民ぜんたいの共産主義的自覚と道徳的品性が大いにたかまり、人民ぜんたいの教育が普及、向上する。また、社会主義の時期にはまだ影をとどめざるをえない古い社会からの遺物である工業と農業の差異、都市と農村の差異、頭腦労働と肉体労働の差異がしだいになくなり、こうした差異のあらわれである不平等なブルジョアの権利の残余もしだいになくなり、国家の機能がただ外敵の侵略に対処するだけで、内部にたいしてはもはや作用をはたさないようになる。このときこそ、わが国の社会は各人がその能力に應じて働き、各人がその労働に應じて報酬を受けとる社会主義の時代から、各人がその能力に應じて働き、各人がその必要に應じて受けとる共産主義の時代に入ることになるであろう。

げんざいの人民公社は、わが国にとつて社会主義建設の速度をはやめ、共産主義へ移りゆくためのよい組織形態を提供した。人民公社はいまの段階でのわが国社会の基礎単位となるばか

りでなく、さらに發展して未來の共產主義社会の基礎單位となるであろう。

廣はんな勤労者は、人民公社という組織形態をすこしもためらわずに受け入れ、いくぶん時代おくれとなつていた生産關係をすこしもためらわずにあらためた。これは、たんにわが国の社会的生産力が飛躍的に發展したからだけでなく、わが国の人民が党中央と毛沢東同志の連続革命についての指導思想をつかんだからである。勤労者は、革命の發展のなかで立ちどまることをのぞまない。かれらは、革命の發展が早ければはいほど、じぶんたちの利益もますます多くなることを知つている。勤労者はじぶんたちが前進するなかで、組織を軍事化し、行動を戰鬥化し、生活を集團化しようという革命精神にみちあふれたスローガンをうち出している。組織を軍事化するというのは、かれらが本式に兵營をつくつたというのでもなければ、ましてや將校におさまりかえつたというのでもないことはもちろんである。ただ、農業の急速な發展が、かれらに工場の労働者や部隊の兵士とおなじように、その組織性を大いにつよめ、労働のなかでもつと敏速に行動し、いつそう規律と能率をたかめ、いつそう廣い範圍で機動的にうごけるようになることを要求しているのである。だからこそ、かれらはその組織を軍事化せねば

ならぬと考へたのである。このようなスローガンを出した農民の指導者は、おそらく、マルクスとエンゲルスがはやくも『共產党宣言』のなかで「産業軍の編成、とくに農業のためのそれ」という綱領を提起していることを知らなかつたであろう。だが、農民の指導者と廣はんな農民大衆は長期にわたる人民革命の武力闘争をつうじて、軍事化はならぬおそろしいものではないことをよく知つている。帝国主義侵略者とその手先に対処するために全人民の武装を實行することは、かれらにとつて、むしろきわめて自然なことであつた。げんざいの農業労働のなかでの組織の軍事化は、人間の敵にたいするものではなく、自然界にたいして闘争をすすめるためのものであるが、これら二種類のこととなつた闘争のなかでたがいに轉化しあうということ、ありがちなことである。

工業、農業、商業、文化・教育、軍事が一体となつた人民公社は、外敵の襲撃がないときは、自然界にむかつて進軍し、農村の工業化、農村の都市化、農村の共產主義化という幸福な未來をめざして前進する。もしも外敵があえてわれわれに攻撃をくわえてくるならば、武装した全人民を動員して、これらの敵をだんこ徹底的に全部のこらず殲滅するため戦うであろう。

こういうやり方は、命令主義をうみはしないだろうか？ われわれは、人民公社の組織の軍事化と全人民の武装は、命令主義とまつたくちがつた別のことがらであるとみている。人民公社がなく、組織の軍事化がおこなわれず、全人民の武装がおこなわれなくても、命令主義は発生しうる。逆に、人民公社があり、組織の軍事化がおこなわれ、全人民の武装がおこなわれとも、命令主義は発生せず、最大限の民主主義を実現することができる。事実は、労働の生産性がいよいよ高まり、農業労働の機械化と電化がいよいよすすみ、社会の生産物がいよいよ豊富になり、人民の文化程度がいよいよ高まることによつて、労働時間ははだいに短縮され、労働の強度もはだいに軽減されるので、命令主義を克服する可能性はいよいよ大きくなるのである。

組織の軍事化、行動の戦闘化、生活の集團化ということは、けつして労働強度の無限の緊張を意味するものではない。党中央が指摘しているように、われわれの労働は律動的なものなればならず、はげしい労働と必要な休息・整備とはたがいに結びついていなければならぬ。そして、労働の規律性と集中性とは、かならず大衆の自覚ある民主主義の土台のうえにうちたてられねばならないのである。

人民公社の設立と発展したいが、かならず大衆の十分な思想的準備の過程をへたものでなければならぬ。十分に意見をのべあい、論議をくりひろげた結果、その地の人民大衆に十分な自覚と自発的な意志があるばあいにはじめて、農業生産協同組合を人民公社にきりかえることができるのである。いま、わが国の農業生産はこのように高まり、わが国の農民の革命的自覚はこのように成熟し、わが党の多くの幹部は整風運動と生産を指導するなかで大衆とのあいだにこのような緊密な連けいをきずきあげている。このような情勢のもとで、人民公社はかならずやそれ自身の強味によつて急速に全国に発展するであろう、われわれはそう確信している。

人民公社の赤旗を高くかかげて前進しよう

(一九五八年九月三日『人民日報』社説)

中国の農村における社会主義運動の新段階をしめす人民公社は、いま、多くの地方で急速に設立され、発展しつつある。この運動は、農民大衆の高度の社会主義的自覚を土台として自発的におこされたものである。もつとも早く生まれた少数の人民公社が成功をおさめてのち、多くの農業協同組合がこれに見ならつてこの運動を一步一步と発展させてきた。いま、人民公社の運動は、党中央と毛主席の提唱によつて、いつそう急速に発展している。すくなくならぬ地方の農民大衆は、おびたしい大字報(注1)、申請書、宣誓書を書いて、人民公社の設立を要求している。河南省と遼寧省では、基本的に全省の公社化を実現した。河北省、黒龍江省、安徽省などでも、人民公社運動がもりあがつている。西北の各省や揚子江流域、揚子江以南の各

省でも、秋の收穫をおわつてのち順次に人民公社を設立する準備をすすめている。すでに人民公社がつくられたところでは、農民大衆がドラや太鼓をうちならして心からこれを祝い、その生産意欲はこれまでにもまして高まつている。ましてや、貧農と下層中農は、「長年ののぞみが今日かなえられた」と、ひととき喜びにわきたつている。

人民公社の根本的な特徴は、一つは大きいこと、もう一つは公共的なことである。だから、人民公社は一種の大きな公社ともいえるだろう。大きいというのは、公社の規模が大きく、人が多く、土地が廣くて、大規模の総合的な生産建設をすすめるのに都合がよいことである。また、農業、林業、牧畜業、副業、漁業が全面的に発展するだけでなく、工業、農業、商業、文化・教育、軍事がたがいにもすびつくことである。すでに設立されている人民公社の規模は、ふつう一万人ないし一万戸ぐらいで、一つの人民公社が一つの郷とほぼおなじ大きさである。(もともと非常に小さい郷は、拡大するか合併してもよい)。人手が多く、力も大きいので、中型の水利工事やわりに複雑な工鉱業建設、わりに規模の大きい道路建設や住宅建設、中学校や中等以上の学校の創設など、これまでの小さな組合ではやれなかつたか、なかなかやれな

つたような多くのことも、いまでは公社で大いにやれるようになった。人手不足の問題もわりにたやすく解決されるようになった。つぎに、公共的というのは、人民公社が農業生産協同組合にくらべていつそう社会主義化し、いつそう集團化していることである。公社の生産規模が大きいため、労働組織はいつそう能率的な、機動的なものでなければならず、婦人労働力ものこらず生産に参加することが要求されるので、共同食堂、託児所、裁縫班といった組織が急速に普及している。また、自家用の土地、各農家で飼っている家畜や栽培している一群の果樹、わりに大きい一部の生産用具など、もと農業生産協同組合でのこされていた生産手段の私有制の最後ののこりかすも、多くの地方では公社設立の過程ですでに人民公社の所有に移されている。少数の公社では、大衆の自覚と自発的な意志にもとづいて、生産手段の全人民的所有制の実施にとりかかつており、分配の面で試験的に賃金制あるいは現物給与制を実施している人民公社もある。こうした試みは有益なものである。なぜなら、農村における生産関係のいつそうの発展の道を示すものであるからである。また、人民公社は工業、農業、商業、文化・教育、軍事の結合を実現しているため、單純な経済組織の範疇をこえて経済、文化、政治、軍事の統

一体となる。そこで、当然、郷の政権は單獨で存在する必要がなくなるので、人民公社と合体して一つにならなければならない。人民公社の社務委員会は、とりもなおさず郷人民委員会である。さらに一步をすすめて、人民公社の縣連合社が縣人民委員会と合体して一つになる動きも見えている。こうなると、集中的・統一的な指導に都合がよばかりでなく、農業協同組合の集團經濟を郷や縣の国有經濟と緊密にむすびつけて、集團的所有制から全人民的所有制に移行するにも都合がよい。だから、人民公社は中国の社会主義建設の速度をはやめ、共産主義へ移行するのにもつとも適した組織形態である。多くのすぐれた空想的社会主義者からマルクス、エンゲルス、レーニンにいたるまでがかつて何回となく予想したのとおなじように、それは未來の共産主義社会の基礎單位に發展するであろう。

農業生産協同組合から人民公社への轉化は、中国の史的発展の必然の趨勢である。中国にはいまのところ七十万前後の農業生産協同組合がある。その多くは一九五五年の社会主義の高まり(注2)のなかで設立され、その後おいおい高級協同組合に轉じたものである。これらの高級農業生産協同組合は疑いもなく單獨經營や互助組、ひいては初級農業生産協同組合よりもは

るかにすぐれており、この數年來中国農業生産の逐年の上昇にたいしてきわめて大きな積極的な役割をはたしてきた。だが、農業生産の發展、とくに昨冬いろいろの農業の大躍進にもなつて、これらの農業生産協同組合はすでに情勢發展の要求に完全には適應できなくなつてきていることがしだいにはつきりしてきた。それというのも、これらの農業協同組合は規模がわりに小さく、全国平均して一組合わずか百戸あまりにすぎず、人手がすくない。公共積立金もすくないうえに、蓄積の速度がおそい。人手がすくなく、土地がせまく、力が小さいため、多角経営を發展させるにもいろいろの制約をうける。多くの事実が立証しているように、農業を急速に發展させ、農村の様相を急速にあらため、農民の生活水準をできるだけはやく高めるには、かならず、自然状態を根本的にかえる農地の基本建設を大規模にすすめ、新しい農業技術上の措置をこうじ、農業を發展させるとともに林業、牧畜業、漁業、副業をも發展させ、農業と農村の生活と大工業とに奉仕する工業をおこし、機械化と電化をしだいに実現し、農村の交通・運輸と居住の條件を改善し、教育、衛生、文化の各種の事業をおこさねばならない。だが、こうしたことはすべて、わずか数十戸や数百戸からなる農業協同組合ではとてもやれないのである。

たとえば、河南省商城縣の「超英」公社のばあい、人民公社ができるまでは、天然資源にひじようにめぐまれていながらも、それぞれの小さな組合で經營している工業はあまり多くはなかつた。ところが、組合が合併して人民公社に轉じてのちは、わずか十日のうちに、幹部二千五百人と社員一万七千五百人の人手を捻出して、鋼鉄、機械、化学肥料、セメントなど四千五百三十の工場を設立した。そのうち三千二百五十の工場はすでに操業をはじめている。大きな公社の強味は、ここにもはつきりとあらわれているのである。じじつ、昨冬いろいろの水利、造林、早ばつ防止、洪水防止などの一連の闘いで、多くの地方の農業協同組合は、小さな組合が大きな組合におよばないことを痛感していたし、もとの労働組織では労働の潜在力をさらにはりおこし、労働の能率をいつそう高めるのに都合が悪いことを痛感していた。だから、多くの小さな組合は連合し、組合、郷、縣、省などの枠までもうちやぶつて社会主義的な大規模の協力をすすめるとともに、「組織の軍事化、行動の戦闘化、生活の集團化」という一連の措置を実施してきたのである。こうしたところから見ても、組織の規模がわりに小さく、経営種目もわりに單純で、集團化の程度もわりに低いもとの農業生産協同組合は、すでに生産力をいつそ

う発展させるうえでの障害になりはじめていたことがわかる。

人民公社が農民大衆のあいだでこれほど急速に発展したのは、ただ経済的な原因だけによるものではないことを指摘しておかねばならない。農民大衆が人民公社にたいしてしめした熱意は、なによりもまず、廣はんな農民の社会主義的自覚と共産主義的自覚がひじょうに高まつていることを物語るものである。一九五七年、共産党は、農村における二つの道（訳注＝資本主義と社会主義の二つの道）の大弁論をつうじてブルジョアリーの右派と地主、富農、反革命分子の攻撃を粉砕し、富裕中農の資本主義的傾向にうちかち、さらにまた整風運動をつうじて幹部と大衆の関係を根本的にあらため、農業生産における右翼的な保守的観点を克服した。今年の農業生産と農村工作ぜんたいの大躍進の過程で、廣はんな農民は、農業生産のめざましい増加ぶりを目にしただけでなく、農村の工業化、都会化という幸福な未来をも見ることができた。すべてこうしたことの結果、農民のあいだにおける共産党の威信は空前に強固なものとなるとともに、社会主義の急速な建設を要求する農民の決意も空前に断固たるものとなり、やがて一歩一歩と共産主義に移行してゆくための条件が準備されたのである。農民大衆は生産建設と文

化・教育のもつとも新しい、もつとも高い発展を追求するとともに、生産力発展の要求にもつともよく適應する新たな生産関係と新たな組織形態を追求している。こうした政治的な自覚が土台となるのでなければ、人民公社運動の発展は不可能であり、また理解することもできないのである。

人民公社の設立は、農村の生産関係をさらに一歩発展させるうえで、きわめて有利な条件を提供している。公社の規模が大きくなり、郷と公社が合体した結果、農村における工鉱業、交通事業と文化・教育事業は急速に発展できるようになつた。それで、農村と都市の差異、農民と労働者の差異、農民と知識人の差異、さらには集團的所有制と全人民的所有制の差異をなくすることがおいおい可能となつてきている。だが、いづれにしても、いまの人民公社運動は集團的所有制をいまずぐ一律に全人民的所有制にあらためることを要求しているのでは決してない。ましてや、各人が能力におうじて働き、各人が労働におうじて報酬を受けとる社会主義の低い段階から、各人が能力におうじて働き、各人が必要におうじて受けとる社会主義の高い段階つまり共産主義の段階に轉じることをしめすものではなおさらない。ごく一部の人民公社は

わりに遠くまですすむかもしれないが、ふつう農村が集團的所有制から全人民的所有制に移るのは三、四年から五、六年をかけてはじめて完成する過程であろう。それからさらに何年かたてば、社会の生産物がきわめてゆたかになり、人民ぜんたいの共産主義的自覚と道徳的品性がひじょうに高くなり、人民ぜんたいの教育が普及、向上する。また、社会主義の時期には影をとどめざるをえない旧い社会からの遺物である労働者と農民の差異、都市と農村の差異、頭腦労働と肉体労働の差異がしだいになくなり、こうした差異のあらわれである不平等なブルジョアの権利のこりかすもしだいになくなり、国家の機能がただ外敵の侵略に対処するだけで、対内的にはすでにその作用をはたさないようになる。このときこそ、わが国の社会は、各人が能力におうじて働き、各人がその必要におうじて受けとる共産主義の時代にはいることとなるであろう。

いま、人民公社を設立する運動は、一九五五年の協同化運動よりもいつそう大きなすさまじい大衆運動に発展しつつある。各地の党委員会は、かならず現地の具体的な活動状況にもとづいて、この運動の発展にたいする正しい計画をたて、積極的な指導をすすめるなければならない。

い。人民公社運動の発展は地方によつて早いところもあれば遅いところもあり、規模や段どりややり方のうえでもそれぞれの特徴がありうるので、しいて一律にやるようなことをすべきではない。人民公社は、かならずその地の大衆が十分に意見をのべ、論議をくりひろげ、真の自覚と自発的な意志を土台として設立しなければならない。ましてや生産手段の所有制についてはなんらかの变革をおこなうばあいには、とくに、あせつたり、軽はずみであつたり、命令主義的な態度をとつたりすることを絶対にゆるされない。いま、多くの地方では秋の野良仕事が多くにいそがしいし、今年の冬から來年の春にかけての生産の準備もなるべく早くおこなわなければならぬ。だから、すでに人民公社の設立にとりかかっているところでも、まだ手をつけていないところでも、かならず当面の生産活動に重点をおかなければならない。

(注1) 大字報Ⅱ大字報とは、中国の整風運動のなかで大衆自身がうみだした相互批判と自己批判の形式のひとつ。意見や批判あるいは提案をごく少ない字数にまとめ(漫画の形式を用いることもある)、大きな紙に大きな字で書いて目立つところにはる。

(注2) 一九五五年の社会主義の高まりとは、一九五五年の後半から一九五六年の前半にかけて中国の農村にあらわれた農業協同化運動の高まりと、これにうながされて都市にあらわれた単独経営手工業の全業種にわたる協同化と資本主義的工商業の全業種にわたる公私共営化の高まりをさす。

農業生産協同組合から人民公社へ

中国共産党河南省
委員会第一書記 吳芝圃

中国はいま、社会主義の建設をはやめるとともに、共産主義社会へ移行するための条件を積極的に準備するという偉大な時期にある。毛沢東同志の旗のもとに起ちあがった六億の人民は、連続革命の精神と山をも移す意気込みをもつて、社会主義の高まりをつぎからつぎへと前進させている。

他の各省とおなじように、河南省ではさいきん農業生産協同組合から人民公社への轉化の高まりがあらわれた。こんどの高まりの到來は、いぜんの、農業生産互助組から初級農業生産協同組合への轉化、初級農業生産協同組合から高級農業生産協同組合への轉化のさいの社会主義の高まりよりもいつそう急速であり、その勢いはいつそう猛烈であつて、たちまちのうちに点

から面にひろがり、全省の廣大な農村にあまねくゆきわたるとともに、都市にまで影響をあたえた。都市でも居住地、工場、学校、機關・團體を單位としてそれぞれひろく人民公社が試験的に設立された。全省の人民はひじょうな意氣込みで、よろこび勇んで毛沢東同志の呼びかけにこたえ、人民公社への道を進んだ。この運動がはじまつてからまだ二、三カ月しかたないのに、今ではもう全省の廣大な農村と都市では公社化をおわつてゐる。

農業生産協同組合の人民公社への轉化は、社会主義の建設をはやめ、共産主義に移行するうゑに大きな意義をもつてゐる。これは、情勢發展の必然的な結果である。

一年あまりまえから、河南省の共産党組織は、『人民内部の矛盾を正しく処理する問題について』の毛沢東同志の指示を真剣に実行し、工農業の生産労働とその他の社会主義建設事業のなかでの人びとの相互關係を改善し、社会主義と共産主義にたいする人民大衆の積極性を十分に發揮させてきた。整風運動についての共産党中央の指示にもとづき、都市、農村で二つの道についてひろく大々的に論議をくりひろげ、ブルジョアジーの右派と地主、富農、反革命分子の攻撃を粉碎し、富裕中農のあいだでの自然発生的な資本主義的傾向を克服した。廣はんな人

民大衆は、是非をみきわめ、敵味方をいつそう明確にし、「プロレタリアートの思想をさかんにし、ブルジョアジーの思想をなくし」、白旗をひき抜き、赤旗をうち立て、社会主義の道をすすむというはつきりした方向を明らかにした。それと同時に、整風運動をつうじて多くの幹部の仕事のやり方がいちじるしく變化し、改善された。幹部と大衆のあいだで、大いにものをいい、大いにぶちまけ、大々的に論議しあい、大字報をはりだすなどの方法をひろくもちいで、批判と自己批判をおこなつたばかりでなく、幹部が大衆を戸別訪問したり、展覽会（実物を展覽して、自分たち自身の欠点を説明する）をひらいたり、たがいに腹の底をうちわるなど微に入り細にわたる方法を生みだして、心の奥まで明らかにし、考えを一致させた。工場・鉱山企業や協同組合の幹部は、虚心に仕事のやり方をあらため、つねに労働者・農民大衆といつしよになつて労働にくわり、労働者・農民大衆とともに実験田をつくつたし、多くの国家公務員や知識人は先をあらそつて農村や山地に入つて行つた。これによつて、大衆とともに喜びも苦勞もわかちあうという共産党のすぐれた傳統がいつそう発揚され、幹部と大衆の連けいは一段と緊密になつた。廣はんな勤勞大衆も、こうするなかで自覺が高まり、のびのびした氣分

になつたうえで、その積極性と創意性を發揮し、指導機関が多くの不合理な規則や制度を改革するのをたすけ、また工場・鉱山企業や協同組合の管理に直接参加した。こうして、いく百千万の心はひとつになり、廣はん人民大衆の労働意欲と集團的な力が十分に發揮されるようになった。こういう状況下で、昨年の冬から今年の春にかけて、全省にわたつて大々的な水利工事運動の高まりがあらわれ、今年の工農業生産の大躍進という奇跡が出現したのであつた。大々的に水利工事をおこない、工農業生産が大躍進をとげるといううげ潮のような動きのなかで、全省の人民は縣、郷、組合の枠をうちやぶり、都市と農村とを問わず、山間と平原との別なく、個人の利害得失にとらわれないで、数百万人を包含する社会主義的な大協力を組織したのであつた。このような共産主義精神のうづばつとした発展こそ、廣はん人民大衆が協同組合の規模をひろげ、私有制のなごりをさらに徹底的になくすることを要求した思想的な基盤であつた。

人民公社化運動は、社会の生産力のめざましい発展が、これまでの生産關係を調整して生産力に適應させることを切実に要求した結果である。農業生産協同組合は集團的所有制であつ

て、基本的には社会の生産力の発展に適應しており、そしてまた、力づくその発展をうながした。しかし、去年の冬いろいろあらわれた工農業生産の全面的な大躍進によつて、これまでの農業生産協同組合の規模では社会の生産力の発展の要求に完全には適應できないことがますますはつきりとしてきた。大々的に水利工事をおこし、工業を經營するなかで、こうした矛盾はいつそう目だつてきた。たとえば、西峽縣の「丹水」人民公社は、いぜんは四十八の小さな協同組合であつたので、水利建設の統一的な計画をつくることができず、去年の冬から今年の春にかけて、それぞれの小さな協同組合がてんでんばらばらに丹水の兩岸に八十いくつかの小型工事をおこなつた。しかし、工事が小さく、質もわるかつたために、洪水におそわれると、これを支えきれず、夏いろいろすでにその八割までがつぶれてしまつた。ところが、公社ができてからは、統一的に十三のダムを修築する準備をすすめているので、これで公社ぜんたいの被害や旱害を根本的に解決できるようになつた。また、われわれはいま大々的に鉄鋼を生産する必要があるが、これについても次のようなことがあつた。南召縣の「郭莊」協同組合では鉄鉱石がたくさんとれるが、石炭がない。一方、近くの「田莊」協同組合には石炭は産出するが、鉄

鉦石がない。このため、合併して大きな人民公社になるまえは、これを統一的に調整するのが容易でなかつた。こうしたことから分るように、これまでのような、規模が小さく、労働力が少なく、物力、財力が不十分で、集團性の度合いのわりあいひくい、ただちに農業とその副業を主とする農業生産協同組合では、より大きな規模で、より急速に各種の建設事業をおこなうという要求には應じきれないし、とくにいま進められている技術革命と文化革命の要求に應じきれない。去年の冬らしい、各地で大規模な社会主義的協力がひろく発展した結果、廣はんな大衆はさらにすすんで連合するのを知り、農業生産協同組合の生産關係をもう一歩すすんで調整するのを知つて、そこから人民公社の設立を積極的に要求するようになった。

河南省における農業生産協同組合の規模の大きさは、一九五六年から一九五八年までに、曲折と変化に富んだ過程をたどつてきた。大きな組合がすぐれているか、それとも小さな組合がすぐれているかについては、共産党内でも党外でもはげしい論争がおこなわれたが、農民は三年間にわたる実践のなかではつきりとした対比を見てとつた。

大きな組合の優越性については、毛沢東同志の著作『中国の農村における社会主義の高ま

り』のなかにはつきりとした指示がある。毛沢東同志は『大きな組合の優越性』という文章につけた編集者の言葉のなかで次のように書いている。「いま経営されている半社会主義的な協同組合は、つくりやすいため、幹部と大衆がすぐに経験をくみとれるようにするために、二、三十戸の小さな組合が多い。しかし、小さな組合は人が少なく、土地が少なく、資金が少ないので、大規模な経営をおこなうことができないし、機械をつかえない。こういった小さな組合はやはり生産力の発展を束縛しているもので、あまりながくここに留まつてはいけぬのである。あつて、しだいに合併すべきである。ある地方では一郷を一組合としてもよいし、少数の地方では数郷を一組合としてもよい。もちろん、一つの郷にいくつかの組合のあるところもたくさんあるが、平原地区で大きな組合を経営できるばかりでなく、山間でも大きな組合を経営することができる」と。しかし、いちぶの人は毛沢東同志のこの指示を信じなかつた。河南省では、一九五六年に高級農業生産協同組合にきりかえたさい、合計二万六千二百一十一の組合があり、一組合の平均戸数は三百五十八戸で、そのうち千戸以上の組合が八百八あつた。一九五七年の春になつて、全省の協同組合はいちおう態勢の整備をおえ、基本的に強固になつたし、

多くの大きな組合の経営はわりあいうまくいった。ところが当時、共産党河南省委員会の内部にいたごく少数の右翼日和見主義者は、河南省のこうした状況をすこしも考えないで、こともあろうに少数の富裕中農の要求にもとづき、よく分析もしないで大きな組合をぜんぶ強制的に分割し、全省の組合を五万四千あまりの組合にわけ、一組合の平均戸数を百八十戸にし、いちばん小さいものは三十戸たらずとなつた。しかし、共産党の各級の委員会があくまでがんばつた結果、四百九十五の大きな組合は保存された。ところで、大きな組合は小さな組合よりもすぐれているので、強固になつたばかりでなく、小さな組合にくらべてむしろよりよい優越性をしめした。たとえば、固始縣の「七・一」農業生産協同組合、汝南縣の「光明」農業生産協同組合、新郷縣の「七里營」農業生産協同組合、魯山縣の「中ソ友誼」農業生産協同組合、安陽縣の「安豊」農業生産協同組合などは、いずれも千戸以上の大きな組合で、生産の発展、基本建設、蓄積の増加、自然災害との闘いなどの面で、周囲の小さな組合よりもつばな成績をおさめた。「安豊」農業生産協同組合についてのべると、この組合は、一九五六年から一九五七年にかけて生産が二・七倍にふえ、積立金は十六万円にたつた。この組合は水車、双刃プラウ、

45

ゴムタイヤの車輛など九百六十台と噴霧器千六百四個など新式農具を買いいれたし、ジーゼル発電機一台、各種の動力ポンプ四十七台、トラクター三台、鋼鉄製の小型ローラー八台など動力機械を買いいれており、そのほかに瓦焼工場を一つ建設し、ミシンを三十九台購入した。そして、一九五七年度的全組合員一人あたりの配当は平均百八十元あつた。ところが、この組合と隣り合っている「韓家砦」農業生産協同組合はわずか百八十五戸で、同年度の一人あたりの配当は平均四十一元しかなかった。組合が小さく、増産がおそいために、蓄積は少なく、新式農具をほんのすこし買いいれただけで、動力機械は一台もなかった。今年の春になると、いちぶの大きな組合はさらに一歩前進し、工業と農業を同時に経営し、農業生産協同組合、手工業生産協同組合、販賣購買協同組合、信用協同組合の四つを一つに合併し、組合で経営する中学校をもうけ、多くの中堅幹部と、思想的に赤く業務に精通した積極分子をきたえあげ、大規模な生産を指導する経験をつみ、実質的には人民公社のひな型をつくりあげたのであつた。これは、小さな組合のとうてい及びもつかぬところである。こうして、廣はん農民は三年らしい實際経験をとうじ、大きな組合と小さな組合をくらべて見ながら、大きな組合がすぐれている

ことをほんとうに認識したのであつた。そして、農民たちは胸をおどらせながら、「総路線こそ灯台だ、共産主義の花が咲き、井戸水の音さらさらと、電気鋸サツサツと、モーターの音はタタタタ。トラクターありプラウあり、電灯をつけ電話ひき、スピーカーが呼びかける」と歌っている。そして、こうした大組合が多くの小組合の発展の方向となつたのである。

河南省では今年の春、農業生産協同組合がぞくぞくと自発的に合併するという現象がうまれ、麦刈りのころになると、もたらあつた農業生産協同組合が合併して三万あまりになつた。そのさい、河南省の共産党各級委員会も重点をきめて試験的に数千戸以上の大きな組合をつくつてみた。遂平縣嶺呀山の「衛星」農業生産協同組合はその一例であつて、今年の四月に二十七の小さな組合が合併してできたもので、戸数が九千三百六十九戸もある大きな組合である。ところで、麦刈りの後になると、こうした大きな組合をつくるのが、重点的な試験の域をこえて、いたるところでひろくおこなわれる大衆的な行動となつた。農村の各地では、小さな組合が合併して大きな組合となると同時に、大々的に工業をおこし、共同食堂や託児所、幼稚園、幸福院（養老院）などの福祉事業をさかんに経営するようになり、また、自家用の土地を

組合におさめ、全面的に大規模な社会主義的協力をくりひろげるようになった。都市でも、さかんに工場を建設し、集團生活やその他の福祉事業をおこなうようになった。これは実質上すでに人民公社運動のはじまりであつた。しかし、だれもその性質については理解していなかつた。ところが、「公社」についての毛沢東同志の指示を知つてのち、はじめて、みんなの眼はつきりとひらけ、廣大な農村と都市にあらわれたこうしたあたらしい組織形態についてはつきりとした理解をもつことができるようになり、この道をすすむのだ、という確信がいちだんとつよまつた。今年の八月下旬に、毛沢東同志は河北省、河南省、山東省を視察したうえでさらに、「やはり人民公社をつくるのはよいことである。その長所は工業、農業、商業、文化・教育、軍事をひとつに合体させることができるので、指導しやすいところにある」という指示をおこなつた。これは、河南省の人民にとつてきわめて大きな啓発であり、鼓舞であつた。こうして、人民公社の道をすすむという動きが、たちまち全省にわたつて高まつた。

以上が、農業生産協同組合からしだいに人民公社へと移つていつたおもな原因であり、その道すじのあらましである。

いまのところ人民公社はまだ、各人その能力におうじて働き、働きにおうじて報酬を受けるといふ社会主義の部類にぞくしている。しかしそれは、農業生産協同組合とは大きなちがいがある。まさしく毛沢東同志がいつているように、そのおもな特徴は、「ひとつは大きいことであり、もうひとつは公共的なことである」。大きいというのには二つの意味がある。第一に、人民公社はもとの農業生産協同組合にくらべて規模がずっと大きい。人民公社化運動がはじまつていらい、河南全省にわたつて大型の総合的な人民公社が千三百五十五つくらいおこり、一社平均七千五百戸あまりにのぼつている。そのうち、五千戸から一万戸のものが七百九あり、一万戸以上のものは百七で、その他は五千戸以下となつている。平原地区では一般に一万戸前後、山間では一般に二、三千戸前後であるが、もとの農業生産協同組合にくらべると、十倍から数十倍も大きく、文字どおり人が多く、土地がひろく、財源がゆたかで、力が大きい。第二に、人民公社はもとの農業生産協同組合よりも多方面にわたつており、範囲がひろい。それはもはや経営項目の比較的單純な農業生産組織ではなくて、農業、林業、牧畜業、副業、漁業を全面的に発展させ、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をうつて一丸とし、経済、政治、文

化、軍事を全面的に結合した、なにかもそろつた社会の基礎組織の単位である。ここからもうひとつの特徴がうまれてくる。つまりそれは、郷と人民公社とが合体したものであり、権力機構と経済組織の合体したものであつて、社会の基礎組織であると同時に、権力の基礎組織でもある、ということである。

公共的であるという意味は、それが、集團的所有制から全人民的所有制に移行してゆくうえでの最良の形態であるばかりでなく、共産主義の芽をふくんでいる、ということである。人民公社は、自家用の土地、私有のわずかな林木、自家飼育の家畜など生産手段の私有の残りかすをしないでなくしてゆく。共同食堂、託児所、裁縫班をつくることによつて、働く婦人のすべてを家庭の雑務から解放することができるといふ方法である。賃金制の実施については、いまやつておられるおもに基本給に奨励金をくわえるという方法である。賃金ははたらいした本人に直接わたしておられ、まとめて家長にわたすということではない。直接賃金をうけとる青年や婦人はみなこれをひじように歓迎している。これは、旧社会からのこされた家長制を根本的になくするものである。一部の公社では現物給与制を実施している。すなわち、あるものは食糧の現物給与制を

施し、あるものは食事の現物給与制を実施しており、経済的條件のもつともすぐれている公社では、生活上の基本的必需物資の現物給与制をこころみており、給与の標準をさだめて、「七包」とか「十包」とかを実施している。「七包」とは、人民公社全員の食、衣、住、出産・養育、教育、医療、結婚・埋葬など生活上どうしても必要なことをせんぶ公社が負担するやり方である。「十包」とは、食、衣、出産・養育、埋葬、結婚費用、教育、住、薪炭、理髪、映画・芝居などの生活費を負担することである。このばあい、生活上の基本的必需物資を供給するに、労働の状況におうじて一部手当を支給する。こういうふうには、公共的であるという面で農業生産協同組合よりもずっとすぐれている。

大きくて公共的であること、これは人民公社の優越性を物語っている。人民公社は、わが国における社会主義の最良の基礎組織形態であり、また、将来社会主義を建設しあげて共産主義に移つてゆくうえでの最良の基礎組織形態でもある。

人民公社は、共産党の社会主義建設の総路線実現にもつとも好都合である。われわれの総路線は、大いに意気どめ、と教えているではないか？ 公社は大きく、人が多いので、これがひ

とたび起ちあがると、その意気込みはひじょうなものである。総路線は、つねに高い目標をめぐして奮闘せよ、と教えているではないか？ 力が大きく、意気込みがすばらしくて、方向（社会主義と共産主義の方向）が正しいので、高い目標をめざして奮闘することができる。総路線は、より多く、よりはやく、よりよく、より経済的に、と教えているではないか？ より多く、よりはやくするには、大量の労働力、十分な資金、それに比較的の高い生産能率が必要である。人民公社の設立は、生産力を一段と解放した。七つの専区の一應の統計によると、ただ単に共同食堂を開設しただけで家庭の雑務から解放された婦人の労働力は、六百九十四万人以上にたつしている。鄭州市の二十歳から五十歳までの働ける人でまだ仕事に参加していないものの数は十二万人あまりであったが、公社が設立されていご、すくなくとも五万人が各種の生産、建設に参加できるようになつた。それと同時に、生産組織の軍事化、生活の集團化、労働の戰鬥化によつて、生産能率は一般に協同組合よりも二割前後たかくなつている。人民公社は協同組合にくらべて積立金の増加が容易であり、農業の機械化を実現するのに好都合である。たとえば、遂平縣のもとの小さな三百十組合では、毎年二百九十万元あまりしか積立てる

ことができなかつたが、生産の大躍進と人民公社の設立によつて、今年だけで資金を三千二百余萬元積立てられるようになった。もしも機械が供給されれば、今年にでも機械化を実現することができ、もとの小さな組合のばあいよりも三年はやくなるのである。許昌地区の大多数の人民公社は、今年一年内に機械化実現のための資金を十分に積立てることができる。これらの条件があれば、より多く、よりはやくやれる。よりよく、より経済的にやることも容易である。というのは、人民公社は協同組合にくらべて、統一的に計画するうえにいつそう好都合であり、技術指導をつよめるのにいつそう好都合であり、人力、物力、財力を計画的に使用するのにいつそう好都合だからである。それと同時に、人民公社はまた、工業と農業を同時に発展させ、軽工業と重工業を同時に発展させ、大中小の企業を同時に発展させ、中国在來のものと同外來のものを同時に発展させる方針をつらぬきとおすのにもつとも好都合であり、さらにまた、全人民が工業ととりくみ、全人民が鉄鋼ととりくみ、全人民が一切の事業を経営するといふ精神を体现するのにもつとも有利である。したがつて、人民公社といふこの基礎組織形態はまた、社会主義の総路線を実現するうえでの最良の組織形態でもある。

53

人民公社はまた、社会主義からしだいに共産主義社会へと移行してゆくものにもつとも適合した組織形態である。公社は、労働者と農民の差異、都市と農村の差異、頭脳労働と肉体労働の差異をしだいに少なくするのに好都合である。人民公社は工農業を同時に発展させる方針を實行しているのであるから、農村にも工業が生まれ、農民は労働者を兼ねるようになる。こんごの工業の配置にあつて、大中小の工業を計画的に星をちりばめたように各地に分散配置し、都市と農村の協力を緊密にしてゆけば、都市と農村の差異はしだいになくなつてゆく。文盲の一扫、初等教育と中等教育の普及、各地における紅専学校の開設によつて、勤労者は急速に科学・文化の知識を身につけ、科学、技術、文化という武器を自分のものにするようになることができる。また、知識人と幹部は肉体労働にくわり、自己の労働化をはからなければならぬ。こうして、頭脳労働と肉体労働の差異もしだいになくなつてゆく。人民公社の設立はまた、一切の個人主義、自己本位主義、資本主義などの古い思想、習慣を一扫し、廣はん人民の社会主義的、共産主義的な思想と自覚をたかめ、共産主義的な道徳と品性をつちかうのにいつそう有利である。こうして、しだいに共産主義社会へと移行してゆくための条件が生まれて

いるのである。

人民公社の出現は、中国社会のあらたな、歴史的意義をもつた大きな変革であつて、その出現は、中国人民のためにかぎりない光明にみちた前途をきりひらき、共産主義への道を切りひらくこととなる。河南省の人民は、人民公社についての毛沢東同志の指示を聞くや、よろこび勇んで人民公社の設立にとりかかつた。この運動の勢いはきわめて猛烈で、進展がはやいため、河南省における共産党の各級委員会は、こぞつてひじような情熱をかたむけ、だんことして勇敢に運動の先頭に立つて大衆の前進を指導したが、しかし、まだまだ心構えが不十分で、経験の総括も適時にこれをおこなうことができなかった。こうした大きな運動となると、どうしても多くの問題がのこされるし、また、あらたに問題が発生し、それらを早急に解決しなければならぬのはもちろんである。そこで、河南省の全党組織の当面の任務は、人民公社をつばに経営し、人民公社の優越性を十分に發揮することである。これをやりとげるには以下のいくつかの活動を立派にやりとげなければならないと思う。

第一に、なによりもまず政治が一切をリードするようにしなければならない。人民公社の設

立は、生産関係の大きな変革であるばかりでなく、生活、習慣の大きな変革であり、それはさらに一步すすんで私有制をなくすことを意味し、さらに一步すすんで人びとの思想意識を改造することを意味する。したがつて、人民公社を設立し、これを強固にするにあつては、二つの道の闘いがやはりひじように尖鋭である。廣はんな貧農と下層中農は人民公社を設立し、公社化の道をすすむことを切実に要求している。これにたいし、少数の富裕中農は公社化に抵抗し、一部のもの地主や富農、反革命分子、不良分子などはあらゆる手だてをつくしてぶちこわしにかかり、デマをとばし、大衆を煽動して公社化に反対している。許昌地区での重点的な調査によると、公社化を積極的に支持するものは八九パーセントで、基本的に支持しているものが七パーセント、公社化に抵抗し、これに反対しているものは四パーセントである。したがつて、人民公社を立派に経営してゆくには、共産党の指導をいつそう強化し、政治工作、思想工作に一段と力をそそぎ、階級路線を真剣に実行し、つらぬきとおして、ひきつづき二つの道のあいだの闘争をくりひろげなければならない。貧農と下層中農にたより、指導における貧農と下層中農の優位を確立しなければならない。とくに、ひろくふかく大衆にたいして社会主義

教育、共産主義教育をおこない、比べてみせるといふ方法で、具体的な例をひいて人民公社の性質、特徴、優越性を説明しなければならぬし、また、人民公社を立派に経営するには、政策の精神を身につける必要があることを説明しなければならぬ。社会主義教育、共産主義教育をくりひろげるにあつては、大いにものをいい、大いにぶちまけ、大字報をはりだし、大的に論議しあうといった形式をとることである。当面、公社の定款の制定とむすびつけて、どのようにして人民公社の優越性を発揮するか、どのようにして人民公社を立派に経営するかなどの問題を重点的に論議することが必要である。討論をつうじて、地主、富農、反革命分子、不良分子の破壊活動をあばきだし、これに打撃をくわえ、少数の富裕中農の思想と行爲を批判し、これによつて廣はん大衆の社会主義的、共産主義的自覚を一段とたかめ、人民公社を立派に経営することについての大衆の確信と決意を強固にすることである。

第二に、経営・管理を強化することである。人民公社の優越性を十分に発揮するためには、統一的に経営し、級別の管理をおこない、農業、林業、牧畜業、副業、漁業の全面的な発展および工業、農業、商業、文化・教育、軍事の緊密な結合に有利なようにするという原則にもとづいて、人民公社の体制の問題を正しく解決するとともに、それにおうじて経営・管理制度をうちたて、これを健全にしてゆかなければならぬ。公社の体制は一般に公社、大隊、小隊の三級管理組織を採用するのがよい。公社は大隊にたいし、大隊は小隊にたいして計画的な管理をおこない、基準作業量を突破したものに奨励をあたえ、大隊と小隊の積極性を十分に発揮させなければならない。管理を強化するにはさらに、公社の具体的な状況にもとづいて、工業の生産計画、労働計画、財務計画などをふくめた、全面的な発展のための統一計画をすみやかに立てなければならない。それには、当面の計画と年度計画もたてなければならないし、また長期計画もつくらなければならない。こうしてこそはじめ、労働力と資金と土地、ならびに各種の天然資源を統一的に使用し、各種の建設事業を計画的に発展させることができるのである。

第三に、生産をうまくやることであつて、これこそ人民公社を立派に経営してゆくうえでの中心の環である。当面ひきつづき秋に取り入れる作物の後期の管理をつよめ、秋の全面的な大豊作を保証しなければならない。秋まきの準備を十分にととのえ、突撃式に土地をふかく掘り

おこし、すべての麦畑をふかいたがやし、ふかく掘りおこすとともに、それとむすびつけて地ならしをよくやり、灌漑の便をはからなければならぬ。とくに鉄鋼を中心とする工業生産を立派にやりとげ、製鉄の躍進計画をやりとげるよう保証し、工農業の両者のすばらしい成果をあげて、人民公社を強固にするための十分な物質的基礎をつくりださなければならぬ。

第四に、集團生活をうまくやることである。まえにも述べたように、公社化していざ、共同食堂や託児所、幼稚園、幸福院など社会主義的な生活福祉事業が各地でひろくおこなわれるようになった。生活の集團化によつて、生産力はいつそう解放され、生産能率は大々的に向上し、人びとの共産主義的思想は高まつた。しかし、生活が集團化していざ、もしもその生活の按配がうまくゆかなかつたら、公社の社員が生産意欲にひびき、人民公社の強化と向上に影響することになる。生産をよくやり、人民公社を強固にするためには、集團生活をよくやつて、公社の社員たちが共同食堂で食べるほうが家で食べるよりも腹いっぱいというまいものを食べられるようにし、子供や年寄りが託児所や幼稚園、幸福院にいるほうが家にいるよりもよい、幸福な生活がおくれるようにしなければならぬ。では、どのようにして集團生活を立派にやれる

ようにするか？ まず生産をよくやり、生産の向上を基礎とし、そのうえになつてほしいに生活を改善することである。生活上の需要を解決するためには、工農業生産をよくやるいがいに、野菜づくりをよくやり、豚や羊、鶏、あひる、魚をうまく飼い、豆腐工場、はるさめ工場、製油工場などの副業生産をよくやつて、公社の社員が主食を十分に食べられるばかりでなく、各種の新鮮な野菜や副食物を十分に食べられるようにしなければならぬ。つぎに、共産党の各級委員会は集團生活上の福祉事業にたいする指導を強化し、相当有力な幹部を配置し、共産黨員、共産主義青年團員および貧農、下層中農の積極分子をえらんで炊事員や保育員などの仕事を担当させなければならぬ。共同食堂には食事委員会をもうけ、食事についての必要な制度をつくり、大衆にたよつて食堂を立派に経営しなければならぬ。もちろん、人民公社が設立されたからといって、すぐに生活を一足とびにぐつとよくすることはできない。やはり困苦にたえて奮闘し、勤儉を旨として公社を経営するという方針をたらぬきとおし、なにごととも簡素にすませるべきであつて、派手好みや浪費に反対しなければならぬ。

第五に、技術革命と文化革命を積極的におしすすめることである。工農業生産の全面的な躍

進にともなつて、廣大な都市、農村ではすべて労働力がはなだしく不足するという問題がうまれた。こういつた状況下でも、廣はんな大衆は社会主義的労働の積極性を十分に發揮し、工業生産の急速な發展を保証している。しかし、労働の強化と労働時間の延長という方法にたよつていたのでは、一時的な解決がえられるだけで、労働力の不足という問題を根本的に解決することはできない。労働力の不足を解決する根本的な方法は、大衆的な技術革命をおしすすめる、生産力の發展をいつそうながすことである。農村における当面の技術革命のおもな内容は、ボール・ベアリングのとりつけを中心とする農具改良運動をひきつづきくりひろげ、揚水用具、運搬用具、深耕プラウなどにぜんぶボール・ベアリングをとりつけ、まず農業の半機械化を実現し、そののち半機械化から機械化へとしだいに移行してゆくことである。文化革命の面では、現在全省にわたつてすでに文盲は基本的に一掃され、中等、初等教育は普及し、業余中学、業余大学、紅専学校は各地に設立されている。そこで、さしあたりこれらの学校をぜんぶ強固なものにするともに、ひきつづきこれをたかめ、思想的に赤く業務に精通した、社会主義建設の積極分子の隊伍を急速にしかも大量に育成して、技術革命の要求にこたえるように

しなければならぬ。公社化していごは、生産関係があらためられたことによつて、技術革命、文化革命にとつてよりいつそう有利な条件がつくりだされている。われわれが指導をつよめさえすれば、技術革命と文化革命により大きな高まりがあらわれるにちがいない。

人民公社を強化する仕事を急速にしとげるため、河南省における共産党の各級委員会は人民公社にたいする具体的な指導を強化しなければならない。指導的な地位にある同志は重点的な個所にふかく入つて調査研究をおこない、状況をはつきりさせ、思想動向をつかみ、新しい問題を発見し、人民公社を立派に経営している経験を適時に総括し、これをおしひろめなければならない。どのような新しい事物のまえでも、重要なことはよく自覚し、苦心しながらよく学び、研究することである。人民公社の問題についてはなおさらそうでなければならぬ。われわれがそのようにやり、しかも、あくまで大衆を信頼し、大衆にたより、大衆路線をあゆみとおしさえすれば、きつと人民公社を立派に経営することができるにちがいないのである。

河北省の人民公社運動

中国共産党河北省
委員会第一書記

林 銑

河北省の農村でも、全国各地とおなじように、人民公社運動の高まりがおこつて、ごく短期間内に全省の農村が公社化をおわり、もとの農業生産協同組合四万二千八百八十三が、それぞれ合併して九百五十一の公社になつた。これらの公社は、小さいもので千戸、大きいものは二万戸あまりで、平均すると八千七百戸あまりになる。小集團の協同組合から大集團の公社に発展したことは、單純な農業生産組織から工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびつけた統一組織に発展したことは、大きな歴史的意義をもつ変革である。この変革はかならずや社会主義

3月
 解放開始の行進
 (2011年) からの
 中心として民権

の政治、経済、文化建設のあらたな高まりをうながすとともに、共産主義へ移行するために必要な条件を準備するであろう。

わが省でも、人民公社運動がたいへん突然やつてきたと考えている同志が一部いる。かれらは、人民公社発展の速度をすこしゆるめるようにと主張している。しかし、こうした見方は、実状に合致していない。これらの同志は、一九五六年における生産手段の所有制の面での社会主義革命の勝利、一九五八年における政治戦線と思想戦線の面での社会主義革命の勝利、一九五八年に生産戦線の面でもかちとられる勝利を過小評價しているのである。かれらは、これらの勝利によつて農村にうまれた一連の根本的な変革について十分な理解をもっていない。このため、客観的な事物の発展のあとにとりのこされてしまつてゐる。こうした見方とは反対に、人民公社運動が河北省で生まれ、急速に発展したことには、他の省におけると同様、歴史的必然性と現実的な条件があるのである。

一九五五年の下半年から一九五六年のはじめにかけて、生産力発展の要求にともなつて、河北省における農村の生産関係には大きな変革が生じた。農業互助組は発展して初級協同組合と

なり、つづいて初級協同組合は高級協同組合へと発展をとげた。この大変革ののち、一九五六年の農業生産と文化建設は飛躍的な発展をせしめはじめた。一九五七年におけるブルジョアジの右派の攻撃に反対する闘いをつうじ、社会主義か資本主義かの二つの道についての大規模な論議をつうじ、全人民の整風運動をつうじて、ほとんどの農民は農村における資本家階級と富裕農民の思想的影響からさらに一步ぬけだし、あたらしい生産関係は大いに強化された。このため、一九五八年の農業生産は、過去の倍から数倍、はなはだしいばあいは数十倍の速さで躍進をとげた。しかし、それよりいつそう重要なのは、みんながこれに満足せず、ここで足ぶみしなかつたことである。自分自身のじかの体験をつうじて、協同化した方が単独経営よりもすぐれていることを知った農民が、協同化の規模と経営範囲を拡大したならば、生産はさらに急速に発展し、みんなの生活はいつそう急速に、もつと普遍的にゆたかになることを一歩すすんで容易に理解できるのは当然のことである。廣はん大な衆は、協同組合の人民公社への切りかえをさして、「ひとつ位があつた」と言っているが、これは全くそのとおりである。

人民公社が設立されるまえから、こうした「ひとつ位があがる」あたらしい要因は、多くの面にあらわれていた。たとえば、水利建設と抗旱闘争（訳注Ⅱひでりととの闘い）のなかで共產主義的な大規模な協力をおこなつたこと、協同組合の経営する小さな工場が全省で百三十万あまりにたつし、百万もの農民が工業生産に従事していたこと、食堂、託児所、裁縫班がいたるところに設けられ、生活の集團化と労働組織の軍事化を実現したこと、一部の協同組合が共通の必要性から、自発的に連合したり、完全に合併したりしたこと、協同組合が郷人民委員会の委託をうけて、事実上基礎権力の機能をはたしていたことなどがこれである。

人民公社はこういつた状況下で生まれるべくして生まれたものであつて、ちやうど「ちいさな流れがあつまつて大河となり」「瓜が熟してへたがおちる」ように、たちまち全省の農村を席卷したのである。ある縣では、情勢の発展にたいする指導機関の見通しがたりなかつたため、協同組合の方で自発的に連合して公社をつくり、大喜びでドラや太鼓をならして、指導機関にその吉報を知らせにやつてきたところさえある。

また、秋の取入れまえに人民公社を発展させると、当面の生産によく影響をあたえるかもしれない、と考える同志もいた。しかし、事実はこれらの同志の心配とは逆であつた。公社

をつくることが大衆の願いに合致していたため、大衆はいつそう意氣こんで生産にはげむようになつた。人民公社が生産発展の要求になつていたので、一九五八年秋の、土地をふかく掘りかえす任務、麦のまきつけと製鉄の任務を完成できる見通しはいつそう大きくなつた。生産によくない影響をあたえるかあたえなないかは、公社をいそいで発展させるかゆつくり発展させるか、秋の取入れまゝに発展させるかあとに発展させるかにかかつているのではなくて、どんな方法と措置をとつて公社を発展させるか、その方法と措置が正しいかどうかにかかつているのである。

われわれは人民公社を設立するにあたつて、つぎのような方法と措置をとつた。

政治がすべてをリードするようにし、ひろく宣傳をおこさない、自由に意見をださせて、論議をかわし、ますます意氣込むようにすること

各級別に討議して、考えを統一し、郷を合併し組合を合併する全面的な計画をつくること
機構を確立して、まず生産を強化すること、生産手段と分配の問題は、つぎつぎに処理してゆくこと

以上のような活動方法と措置をとつたので、人民公社運動はなんの無理もなく自然に発展をとげ、生産を力づよくおすすすめ、よくない影響はなにもうまれなかつた。

二

人民公社はどういつた性質のものか？　これが、河北省の人民公社運動の発展中にぶつかつた重要問題であつた。人民公社と協同組合とをくらべて、二つの正しくない見方があつた。あるものは、公社というのは規模が大きいで、その他は協同組合となんのかわるところもないと考へた。また、あるものは、公社というのは完全に集團的所有制からぬけだし、全人民的所有制にうつつたものであると割りきつて考へたし、まったく共產主義的なものだと考へるものさへいた。そのひとつは、人民公社が大きいとともに公共的であること、その経営が総合的であること、公社と権力が統一されていることなど、あたらしい特徴を見てとつていない見方、もうひとつは、これらのあたらしい特徴の発展の程度をただしく認識できないで、萌芽状態にあるものを成長しきつたものと見ていた見方である。こうした二つの見方にしたがつて活

動を指導すると、いずれもこれらのあたらしい要素をただしく処理することができず、ひいては人民公社を立派につよめ、高めることができない。

人民公社の所有制は、今日の状況についていえば、いくらか全人民的所有制の要素をふくんではいるが、いまのところまだ集團的所有制が主である。それをいまずに完全な全人民的所有制にきりかえることは必要ではない。しかし、生産の発展と大衆の自覚の向上につれて、どのようにしてしだいに完全な全人民的所有制に移行してゆくかというこの問題は、たしかにわれわれに課せられており、これについて検討してみる必要がある。

げんざい一部の縣では、さらに一段と經濟を發展させるため、全縣の各公社の積立金のなかから適当な割合で資金を抽出して工業、交通、水利、林業など大規模な基本建設にこれを投資している。これに類似した資金の抽出は、こんご縣の範圍をこえるかもしれない。こうして抽出された資金は、事実上すでに集團的所有制の枠をこえ、全人民的所有制に近づくか、あるいは全人民的所有制そのものになつているのである。

もつとも重要な生産手段である土地については、河川網の修築、水路の開設、ダム建設、

道路の敷設、緑化、工場の建設などによつて、これまでも調整がおこなわれてきたし、こんごも必要な調整がおこなわれるであろうが、こうした調整にあたつて、現在では代償をはらつていない。統一的に計画をたて、統一的に土地を利用するというこうしたやり方によつて、土地は事実上すでに全人民的所有の性質をそなえるようになっていゝ。徐水縣では、土地を全人民的所有とすることを宣言したが、大衆は、べつに唐突な感じをうけることなく、これは全縣で統一的に生産計画をたてるうえに有利な重要條件であると考えている。

公社は分配にあたつて賃金制または半現物給与・半賃金制を実施しているが、これは集團的所有制から全人民的所有制にうつる重要な條件のひとつである。こうすることによつて、もともと農業生産協同組合が組合員に労働の報酬を分配していたやり方はあらためられ、組合員が生活上消費する部分是不安定だったのが比較的安定したものとなり、積立金の部分を生産の発展にもなつて拡大してゆくことができるようになった。公社が定めた現物給与の標準と賃金の標準ならびに公社の積立金とその使用計画は、上級の指導機關の承認をへてはじめて実行にうつされる。これはつまり、公社の生産計画だけでなく、分配計画も國家計画の軌道にのつて

いるということである。こうすれば、各公社の社員の収入が適度に、しだいに増加してゆくことを条件として、各公社のあいだにおける社員の収入の懸隔をしだいにちぢめてゆくことができる。こうすればまた、国家は社会の拡大再生産の必要と公共福祉の必要にもとづいて公社を指導し、国家計画にしたがつて公社に積立金を使用させ、しかも必要なばあいには、公社がおさめるべき税金を適当に調整することもできるのである。これは、人民公社がしだいに全人民的所有制にかわつてゆくうえでの重要なしるひのひとつである。

現実の生活そのものが、さらに、集團的所有制から全人民的所有制へと轉化してゆくうえでのその他の具体的な方法と具体的な形態をうちだすであろう。生産の躍進と大衆の自覚のたかまりから、この轉化はさして遠いことではあるまい。ある縣ではもうすぐ實現するであろうし、べつな縣ではいくらかおくれ、数年ごとに實現するであろう。

ここで家屋の問題についてふれる必要がある。農村のひどくおくれた、そしていちぢるしく分散した居住の条件をあらためることは、政治面であると経済、文化の面であるとをわす、いずれも大きな意義をもっている。公社の設立と生産の發展につれて、この任務もわれわれの

面前にもち出されてきている。公社は可能なときに、必要な建築資材の生産を發展させるべきであり、また一部の労働力をさいて、計画的に建築に従事させるようにすべきである。新しい建築は質的にいつそう高く、より実用的で、いつそう美しくなければならぬ。それと同時に、公社の社員の共産主義的自覚がいつそう高まるにつれ、大衆の話し合いをつうじて家屋の所有制をあらためる問題も順調に解決してゆくことができる。公社ができたばかりのときに、農村の家屋をいそいで集團的所有制または全人民的所有制にあらためる必要はない。

三

人民公社運動は、かならずや社会主義の建設をはやめ、しだいに共産主義に移行してゆく條件をつくりだすにちがいない。しかし、いまのところ、やはり公社は主として社会主義的性質のものである。というのは、公社は共産主義的要素をそなえてはいるが、まだ「各人その能力におうじて働き、必要におうじて受けとる」というところまではいっていないからである。

一九五八年における河北省の農業とその副業の総生産額は、前年にくらべて二倍前後にな

り、食糧の総生産高は平均一人あたり五〇〇キロ前後にたつて居るであろうし、各地には、いたるところで共同食堂が設けられている。したがって、河北省の人民公社は半現物給与・半賃金の分配制度を実施することができる。半現物給与とは、基本的に国家の定めた標準にしたがつて、公社の社員の食糧を無料で供給するか、またはさらにすんで無料で食事を供給し、社員は食堂に行つて無料で食事することである。もちろん、こういうふうには食糧の現物給与制または食事の現物給与制を実施するさい、「働かないものは食うことはできない」という原則はひきつづきおこなわれる。半賃金とは、食糧または食事がいの生活費を、多く働いたものは多く報酬を受けとるという原則にしたがつて、現金で社員に支拂うことである。このさい、社員の労働意欲をふるいおこさせるために、賃金の一部を奨励金のかたちで社員に分配する。

食糧の現物給与制または食事の現物給与制を賃金制とむすびつける方法を実施するということは、「各人能力におうじて働き、必要におうじて受けとる」というところへしだいに移行してゆくはじまりである。この方法を実施すれば、公社の人びとがみな平等に腹いっぱい食べることが保証される。これはだれにとつてもきわめて大きな解放であり、「みんなが、おたがい

のために」という共産主義的思想の成長をうながすことになる。しかし、さしあたつて生産の水準はまだ十分高いところまでいつていないし、農民の共産主義的思想にたいする心構えもまだ不十分な現状にかんがみ、働きにおうじて報酬を受けとる分配制度も保留しているのである。

生産の躍進につれて、全社会の生産物はひじょうに豊富になる。技術革命と文化革命の進展にともなつて、人民公社は発展して都市と農村の結合した一つの単位となり、都市と農村の差異、労働者と農民の差異、頭脳労働と肉体労働の差異はしだいになくなつてゆくし、人民の共産主義的自覚、あたらしい高尚な道徳、規律をまもる高度の自覚も大いに高まるであろう。そのときには人民公社は「各人その能力におうじて働き、働きにおうじて受けとる」という社会主義の原則から、「各人その能力におうじて働き、必要におうじて受けとる」という共産主義の原則へとうつつてゆくであろう。

以上をまとめてみると、現在の経験がしめしているように、われわれの農村発展の道はこういうことになる。

協同組合——高級協同組合——人民公社——高級人民公社（完全に共産主義的な人民公社）。

前半の道はわれわれの革命がすでに歩んできたところであつて、後半の道がいまのわれわれの見とおしである。

ひとつの公社を例にとつてみても、共産主義社会に移行してゆくのがさして遠いことではないのがわかる。徐水縣の「商莊」人民公社は、四十の小さな協同組合が合併してできたもので、人口は五万六千余人いる。ここでの一九五八年における食糧の生産高は一人あたり平均千キロあまりにたつており、一九五九年には一人あたり平均千五百キロになる見込みである。そこで一九五九年には食糧の作付面積を八万ムー（五三七七町歩）から六万ムー（四〇三三町歩）にへらし、経済作物、野菜、果実、木材などの生産をふやすことになつてゐる。そして、一九六二年には、食糧の作付面積を二万五千ムー（二六八〇町歩）にへらし、経済作物をいまの一万ムー（六七二町歩）から六万ムー（四〇三三町歩）にふやし、木材林と果樹林を二万ムー（二三四四町歩）にふやすことになつてゐる。現在この公社には電話ステーション、郵便・電信電話局、

百貨店、銀行、病院、大学があり、一部の村には電灯がある。この公社ではまた旋盤工、仕上工、鑄物工などすべてそろつてゐる機械修理・組立工場を建設した。この工場で積立てた資金で、旋盤を十台買うことができる。一九五九年には、この工場は操作の機械化を実現し、さらに分工場を三つ設けることになつてゐる。また、この公社には二百人がはたらいてゐる製鉄所があり、一九五九年には年産三十万トンのセメント工場を四つと年産二十万トンの煉瓦工場を三つ建設することになつてゐる。ここではいま、甘薯の切りほしからアルコールとゴムをつくる小型化学工場を建設中である。この公社の経済、文化が、あまり長年月を要しないでひじょうな発展をとげ、共産主義にうつつてゆくために必要な条件を準備するであろうことは疑いのないところである。

四

人民公社化が実現していざ、いまわれわれの当面する農村でもつともさしせまつた政治的任務は、人民公社を強化するとともに、多くのあたらしい建設にとりかかることである。

まず第一に、公社の全社員の積極性を十分に發揮させて、当面の工農業生産をりつばにやりとげることであり、とりわけ、秋の取入れ、土地をふかく掘りかえすこと、麦まき、鉦石の採掘、製鉄をりつばにやりとげなければならない。公社は政治、経済、文化の各方面にわたる全面的な計画、工業、農業、林業、漁業、牧畜業、副業の各方面にわたる全面的な計画を立てなければならない。この計画では、一九五九年の生産および各方面の仕事の具体的な任務をうちだすとともに、一九六二年の見とおしもたてなければならない。計画の草案は大衆の討議にかけ、上級指導機関の認可をえたのち、大衆を動員し、「苦戦三年」の精神でこれを積極的に遂行しなければならない。

つぎに、全力をあげて生産を發展させることとむすびつけ、半現物給与・半賃金のあたらし分配制度を試験的に実施することとむすびつけて、徹底的に社会主義教育、共産主義教育をくりひろげなければならない。生産建設の成果と、これをかちとつた重要な経験を宣傳し、共産党の社会主義建設の総路線の勝利を宣傳し、人民内部の矛盾を正しく処理することの勝利を宣傳しなければならない。この宣傳・教育運動のなかで、「白旗をひきぬき、赤旗をうちたて

る」という共産主義の風格をあますところなく発揚し、廣はんな社員の、社会主義の道をあゆむという決意と確信をうちかため、一部の富裕農民のなかのこつている自然発生的な資本主義的傾向を批判し、個人主義、自己本位主義を徹底的にうちやぶり、共産主義を確立しなければならない。大衆を起ちあがらせて、思う存分に論議させ、これによつて公社内部の経済問題を正しく処理するなかで、社員の共産主義的自覚をたかめなければならない。大躍進運動のなかでぞくぞくとあらわれてきた、思想的に赤く、業務に精通している社会主義の積極分子を表彰し、そのなかのすぐれた人物を指導的な地位に拔てきし、また入党の条件のそろつているものはこれを共産党に吸収して、党の新鮮な血液をふやすようにしなければならない。

第三に、公社の組織機構を健全にし、公社の管理制度と公社の労働調整組織をうちたてなければならない。社員代表大会を健全なものにし、民主的に公社を運営する原則をあくまでつらぬきとおさなければならない。公社における集團指導の制度、計画制度、財務制度をすみやかに確立しなければならない。経営・管理の面では集中的指導、級別の管理を実行しなければならない。生産大隊を組織して、生産を管理し、労働を組織し、経済計算制を実施する基礎單位

とすべきである。大隊の下には業務べつの隊をいくつかつくつて、これを、労働し、生産任務を完遂するための戦闘単位とする。もとの小さな協同組合の工業、商業、学校の配置や民兵の基幹隊の組織はさらにこれを調整しなければならない。

指導機関の活動を、公社化した農村の実状に合致させるため、縣級の機関は連合社委員会を組織して、公社にたいする具体的な指導をつよめるようにすべきである。徐水その他の縣ではすでに縣人民總公社が設けられており、縣人民委員会と人民總公社がひとつに合体している。そして、縣人民委員会所属の各機構は、人民公社のそれに相應する各種の機構にあらためられた。これは思いきつた改革であり、実験であつて、われわれとしてはこのなかから経験をくみとりたいたいと考えている。いまのところ、一般の地区では連合社を組織するのがよいようである。

農村の公社化というあたらしい情勢におうじて、縣の規模も調整して、これを大きくする必要がある。われわれは省内にある百四十七の縣を合併して七十縣から八十縣ぐらいにしようとして計画している。山間地区、丘陵地区、平原地区ではそれぞれ事情がちがうので、それにおうじ

て、いつそう計画的に大規模な建設をおこなうためにそれぞれ人口三十万前後、五十万前後、八十万前後の縣とする計画である。

毛沢東同志の、人民内部の矛盾を正しく処理することについての偉大な思想、マルクス・レーニン主義の連続革命論を創造的に発展させることについての偉大な思想は、社会の生産力をもつとも急速に発展させるようにするため、すすんで、たえず生産手段の所有制の面、および労働と分配にさいしての人びとの相互関係をうまく調整するようにとわれわれに教えている。人民公社の出現こそは、まさしくこうした思想の勝利である。われわれはこの偉大な思想にみちびかれて、ひきつづきあらたな勝利をかちとるであろう。

(一九五八年十月一日第九号『紅旗』誌掲載)

「衛星」人民公社暫行定款（草案）

（一九五八年八月七日）

河南省遂平縣の「衛星」人民公社は今年の四月、四つの郷にわたる二十七の農業生産協同組合が合併してつくつたものである。公社に加入している農家は九千三百戸あまり、社員数は四万三千余名におよんでいる。この公社の定款（草案）には、公社における生産手段の所有制、経済、文化、軍事、政治など各方面の任務、公社の分配制度、組織機構、管理制度、福祉事業などについての規定がなされている。ここに全文を発表して各地の参考に供する。

——「人民日報」編集者

第一條 人民公社は、勤労者が共産党と人民政府の指導のもとに、自発的な意志にもとづい

て連合した社会の基礎組織であり、その任務は、公社の範囲に属する工農業の生産、交換、文化・教育および政治についてのすべての事務を管理することにある。

第二條 人民公社の目的は、社会主義制度をうちかためるとともに、しだいに共産主義制度へ移行するための条件を積極的につくりあげることにある。

このためには、大きな意気込みにもえ、つねに高い目標をめざし、より多く、よりはやく、よりよく、より経済的に農業、工業の生産と文化・教育事業を發展させ、技術革命と文化革命を実現し、しだいに農村と都市の差異、肉体労働と頭脳労働の差異をすくなくしてゆかなければならない。

公社は、社会の生産物がきわめてゆたかになり、人民が高い自覚をもつという条件のもとで、「各人はその能力に應じてはたらき、その労働におうじて報酬を受けとる」という段階から、しだいに「各人はその能力におうじてはたらき、その必要におうじて受けとる」という段階へ移行する。

第三條 満十六歳にたつた公民は、すべて、公社に加入し、正式社員となることができ

る。もとの地主、富農、反革命分子およびその他政治的権利を剝奪されているものは、入社を許して準社員とし、法律によつて政治的権利をえたものは正式社員とすることができる。

社員はすべて、公社の定款をまもり、社内での決議を履行し、労働規律をまもり、公共財産を愛護する義務を負う。正式社員は、精神病者をのぞき、すべて選挙権、被選挙権、表決権および社務を監督する権利をもつ。準社員は、社内での選挙権、被選挙権、表決権がない。ただし経済上では、正式社員と同様な待遇をうける。

第四條 各農業生産協同組合が合併して公社をつくるにあつては、共產主義的な全面的協力の精神にもとづき、いつさいの共有財産を公社に移管すべきである。そのさい、定額より多くても返還をうけず、少なくとも補充はしない。もとの債務は、その年度の生産にあてたものを各組合が清算するほか、その他のものは公社が肩代りし、責任をもつて償還する。各農業生産協同組合の組合員がおさめた出資金は、これまでどおり各人の名義で登記するが、利子はつけない。各農業生産協同組合の組合員の投資は、公社が責任をもつて償還する。

社外から轉入したか、または満十六歳になつて入社した社員は、あらためて出資金をおさ

める必要がない。社外へ轉出したか、または死亡したばあいにも、出資金は拂いもどさない。

第五條 生産手段の公有化が基本的に実現した基礎のうえでは、組合員が公社に轉入するばあい、自家用の土地をすべて公社にひきわたすとともに、私有の敷地、役畜、林木などの生産手段を公社の公有にきりかえる。ただし、少数の家畜や家禽はそれまでどおり私有とする。組合員の私有にぞくする役畜、林木を公社の公有にきりかえるばあいには、評價のうえ、これを本人の投資としなければならない。

単独経営の農家が公社に加入するばあいには、少数の家畜や家禽を手元にくすほか、土地、役畜、林木、大型農具などの生産手段をすべて公社の所有にきりかえるべきである。これらの生産手段は、もとの農業生産協同組合の規定にてらして評價のうえ、出資金にあて、残額は本人の投資とする。

第六條 公社は、ひきつづき水利工事をおこし、肥料をふやし、土壌を改良し、優良品種を普及し、役畜を増殖し、病虫害を予防、絶滅し、合理的な密植をおこない、深く耕し、入念に耕作して、農業生産をひきつづき高まらせなければならない。公社は、積極的に農具の改良を

おこない、早急に農業の機械化と農村の電化を実現しなければならない。

公社は、できるだけはやく工業を発展させなければならず、なによりもまず、鉱石の採掘、製鉄・製鋼、ボール・ベアリングの製造、農産物の加工、農具の製作、肥料の製造、建築材料の生産、機械器具の修理、水力発電、メタン・ガスの利用およびその他の工場、鉱山を建設しなければならない。

公社は、計画的に道路をつくり、河川をさらえ、交通用具を改良し、電話をとりつけ、すでに近代的な交通網を確立してゆかなければならない。各大隊に一名ないし二名の郵便配達係をおき、その賃金は公社が支拂い、社員からはべつに料金をとらない。

第七條 公社には、販賣購買部をもうける。これは国营商業の基礎組織である。販賣購買部の資金は上級の国营商業機関が交付し、従業員の賃金は公社が支拂う。販賣購買部の利益金は国营商業機関におさめるが、公社がわがその一定比率を取得してもよい。公社は、販賣購買部が国家の統一買付、統一買入(注)の任務を完遂するのを保証し、上級の国营商業機構の計画と制度を実施するとともに、販賣購買部にたいして具体的な業務指導をおこなう権利をもつ。

販賣購買部は、各大隊に分所をおき、また、各生産隊の共同食堂に小賣部を置いて、食事時間に営業し、ひろく大衆の便宜をはかる。分所は独立採算制をとり、その損益については販賣購買部が一括して処理する。分所の資金は、まず社員がいせんに販賣購買協同組合へおさめた出資金をあてるが、もしこれで足りなければ、さらに販賣購買部が方法をこうじて補充する。これらの出資金にたいしては、利益配当をおこなわない。

販賣購買部は、縣の販賣購買協同組合に加入して、その組合員となる。

第八條 公社には、信用部をもうける。信用部は、人民銀行の営業所である。信用部の資金は上級の人民銀行が交付し、従業員の賃金は公社が支拂う。信用部の利益金は上級の人民銀行におさめるが、公社がわがその一定比率を取得してもよい。公社は、信用部が上級の人民銀行の計画と制度を実施するのを保証するとともに、信用部にたいして具体的な業務指導をおこなう権利をもつ。

信用部は、各大隊に分所をもうけると同時に、各生産隊に出張所をおき、ひろく大衆の便宜をはからなければならない。分所は独立採算制をとり、その損益については信用部が一括して

処理する。分所の資金は、まず社員がいぜん信用協同組合へおさめた出資金をあてるが、もしこれで足りなければ、さらに、信用部が方法をこうじて補充する。

信用部と各分所は、公社と各大隊の金庫であり、大口の現金の出納は信用部と分所の手を通じなければならぬ。信用部は、公社と他の経済組織とのあいだ、公社内部の独立採算制組織相互のあいだでは非現金決済をおこなない、社員にたいしては非現金決済をおこなわない。

第九條 公社は、社員を教養と技術と全面的な才能をそなえた勤労者に逐次そだてあげてゆく。

公社は、労働と緊密に結びついた普通義務教育を実施する。あまねく小学校と業余の補習学校を設け、逐次、学齢にたつた兒童のすべてが入学でき、青壯年のすべてが小学校の程度までの補習教育をうけようようにしてゆく。逐次、大隊ごとに業余の農業中学校を設け、青壯年のすべてが高級中学の程度までの補習教育をうけようようにしてゆく。條件がそなわつていばあいは、公社の必要に應じた専門学校または大学を設ける。將來、生産が高度に発展したばあいには、社員の労働時間を適宜に減らし、その勉学の時間をふやしてゆく。

公社は、社員が廣はんな科学の研究、まず優良品種の育成、土壌の改良、樹木の栽培、役畜の増殖、病虫害の絶滅、耕作技術の改善と工具の改良についての研究と実験をおこなうのを激励し、援助する。

第十條 公社は、全人民の武装を實行する。適齡の青壯年の男子と復員した退役軍人は、民兵を組織し、たえず軍事教練をおこない、国家からあたえられた任務をひきうけるべきである。民兵が軍事教練をうけ、任務を遂行する期間の賃金は、通常どおり支給する。

公社は、兵員の動員と復員軍人の配置をおこなう。革命のため命をささげた人びとの家族、不具となつた軍人および服役中の軍人は、もし家庭の労働力がたりないばあいは、公社から適宜に優遇をうける。

第十一條 公社は、郷の範囲で設立し、一郷に一社とする。運営を容易にするため、郷と公社をむすびつけ、郷人民代表大会の代表は公社社員代表大会の代表をかね、郷人民委員会委員は公社管理委員会委員をかね、郷長は社長をかね、副郷長は副社長をかね、公社管理委員会の事務機構は郷人民委員会の事務機構をかねるものとする。

第十二條 公社の最高管理機関は社員代表大会である。公社の重要な問題は、社員代表大会で討議して決定する。社員代表大会は、各生産隊と各方面（たとえば、婦人、青年、老人、文化・教育関係者、医務関係者、科学技術関係者、工業関係者、商業関係者、少数民族など）の代表的人物をふくむべきである。

社員代表大会は、管理委員会を選出して、社務を管理させる。管理委員会は、社長一名、副社長若干名、委員若干名で構成し、その下に若干の部または委員会（たとえば農業、水利、林業、牧畜業、工業・交通、財政・食糧、商業、文化・教育、武装・防衛、計画、科学研究など）を設けて、それぞれ関係事務を分担させる。各部と委員会の人選は、管理委員会が指名し、社員代表大会で決定する。管理委員会は、常務委員を選出して、日常活動を処理させることができる。

社員代表大会は、監察委員会を選出して、社務を監察させる。監察委員会は、主任一名、副主任若干名、委員若干名で構成し、その活動は国家監察機関の指導をうける。

社員代表大会、管理委員会、監察委員会の任期はいずれも二年とし、その職に基だしく適し

ないものには、任期満了まえでも、もとの選挙単位がその職務を免することができない。

第十三條 公社は、生産面での責任制を実現しやすくするため、集中的指導と級別の管理を実施する。生産に有利で、指導に便宜であるという原則にもとづき、全社をいくつかの生産大隊にわけ、各大隊をさらにいくつかの生産隊にわけける。生産大隊は、生産を管理し、独立採算制をとる組織であつて、損益は公社が一括して処理する。生産隊は労働を組織する基本単位である。生産大隊は、公社の全般的計画の完遂を保証するという条件のもとで、生産と基本建設を具体的に組織し、生産支出と奨励金を具体的に決定する一定範囲の機動的な権限をもつ。大隊と生産隊が生産計画を超過完遂するか、または生産支出を節約したばあいには、公社と大隊はそれ相應に奨励金をあたえる。農業の機械化を実現させるとき、大隊ごとにトラクター隊をつくる。工場、鉱山、林場、牧場などのうち、わりに規模の大きなものは公社が直接に管理し、わりに規模の小さいものは大隊に管理をまかせてもよい。小型の機械や設備（たとえばミシン、メタン・ガス発生装置、粒状肥料をつくる設備など）は、生産隊に管理をまかせてもよい。

大隊には社員代表会議を設け、その大隊の社員代表大会代表によつて構成する。大隊の社員代表会議は、大隊長一名、副大隊長若干名、委員若干名を選出して大隊管理委員会を組織し、監察主任一名、副主任若干名、委員若干名を選出して監察委員会を組織する。その任期はいずれも一年とする。

生産隊は、隊社員大会が隊長一名、副隊長若干名を選出して組織した隊務委員会によつて活動を指導される。

第十四條 公社は、収入が安定し、資金が充実し、社員が自覚的に労働規律をかためうるという状況のもとで、賃金制を実施する。各人の参加する仕事の強度と複雑度、各人の体力の強弱、技術水準の高低および労働態度の良否にもとづき、大衆の合議によつて賃金の等級をきき、毎月、級におうじた一定額の賃金を支拂う。特殊な技術をもつものには、べつに技術手当を追加してもよい。月々に支拂う賃金には、変動があつてもよい。公社の収入がわりあいに多く、社員の必要とする額がわりに多い月には、賃金を多く支拂い、その他の月には少なく支拂つてもさしつかえない。とくにひどい災害に見まわれたばあいは、事情を考慮して賃金を少なく支拂つてもよい。

賃金制を実施したのちには、各単位と各人の労働状況を定期的に評價比較し、仕事に積極的に任務をよく完遂したものにたいしては奨励金をあたえるべきであり、仕事に消極的で任務を完遂しなかつたものにたいしては賃金減額の処罰をくわえてよい。全社の一年間における奨励金は、基本給総額の四分の一以内とする。奨励金は三つの部分にわけ、公社、大隊および生産隊で管掌する。仕事の分配と労働状況の評價比較は、先進的な基準作業量の平均値を基準としておこなう。

賃金制度の実施後、**欠勤**したばあいは賃金から相当額をさしひく。ただし、各人が一カ月に二日、婦人のばあいは三日の休暇をとることができ、賃金は平常どおり支拂われる。婦人は出産のさい一カ月の休暇をとることができ、賃金は半額を支拂われる。公傷のばあいは、休養中、賃金を平常どおり支拂われる。病氣が長びき、欠勤したため生活にこまるものには、福祉基金から補助金を交付する。

まだ条件がそろわなければあには、まず出来高拂賃金制を実施することとし、一労働日の價

値を決定のうえ、毎月社員が働いた労働日数にもとづいて、労働の報酬の一部または全部を支拂つてもよい。

公社の管理機構については、簡素化を励行し、管理人員全員の賃金が公社の賃金総額の一パーセントをこえてはならない。各種の会議も簡素化し、できるだけ生産労働の時間に食い込まないようにすべきである。

第十五條 食糧生産が高度に発展し、全社員がこぞつて賛成すれば、食糧給与制を実施する。すべての社員は、その家庭の労働力の多少にかかわらず、政府の定めた食糧給与標準にもとづき、家族数におうじ無料で食糧の給与をうける。食糧給与制の実施にさいしては、家庭に労働力をわりあい多くもつ社員がそれ以前よりも多くの収入をうるようにしなければならぬ。

まじめに働かず、いくど注意してもあらためないごく一部のなまけものには、社員の討議にかけたうえで、そのものの労働を監督しつつ改造してゆく。

第十六條 賃金制と食糧給与制を実施する土台は、全社員が「それぞれその能力に應じてはたらく」ということである。各社員は、つぎの労働規律を自覚的にまもるべきである。(一) 積極的に労働に参加すること、(二) 公共財産を愛護すること、(三) 仕事の質を保証すること、(四) 指揮と配置に服従すること、(五) すすんで他に協力すること。

公社は、政治活動をつよめ、共産主義的思想教育をつよめ、貧農と下層中農の積極分子とに依拠して共産主義的労働競争と労働の評価比較をくりひろげ、「各人はその能力に應じてはたらく」ということが次第にすべての社員の自覚した行動となるようにする。

第十七條 公社は、共同食堂、託児所、裁縫班をつくつて、家事の労働から婦人を解放しなければならぬ。管理を容易にするため、共同食堂と託児所は一般に生産隊ごとに設ける。食堂と託児所を利用したがるものものは、各自の自由にまかせる。食堂を利用するものでも、各自で給菜を準備するのはさしつかえない。共同食堂、託児所、裁縫班に勤務するものの賃金は公社が支拂う。かれらが社員へ奉仕するさいに受けとる料金は、損もせず、利益もえないという原則で定める。共同食堂は野菜畑をつくり、豚や鶏を飼い、たえず賄を改善してゆかなければならない。

第十八條 公社は、しだいに医療機構を設立、整備し、逐次つぎのような状態を実現する。すなわち、公社には中心病院を設け、一般の重症患者を收容する、大隊には診療所を設け、軽症患者の診察をおこなう、生産隊には保健員と助産婦をおき、疾病の予防、病人の看護、産婦のための助産などをおこなう、條件がそなわれれば公社に療養所を設ける。

公社は、協同医療を実施する。社員は、家族数におうじて毎年一定額の協同医療費をおさめ、医療をうけるさいに料金を拂わない。中心病院は、そこで治療できない特殊の重症患者のばあい、これを適当な病院に紹介して治療をうけさせるほか、そのために必要な旅費と治療費を負担すべきである。ただし、老衰や慢性病患者のばあいは、当分、紹介しないこととする。経済がゆたかになれば、公社は公費治療を実施する。

第十九條 公社は、労働能力に乏しいか、またはこれを失い、しかも生活の面でたよるものない老人、病弱者、みなし子、やもめ、不具の社員にたいしては、生産の面でも生活の面でも適切な処理と配慮をくわえ、その生活にしかるべき保証をあたえる責任がある。公社は、幸福院をもうけて、子女のない老人を收容し、かれらに軽い労働をさせ、必要な給与をあたえ

て、晩年を楽しく過させる。

公社は、共同墓地をつくる。生産と建設の面で必要なら、墓主の同意をえて、いまある墓を他へ移すことができる。

第二十條 公社は、社員の居住条件をしだいに改善し、社員の居住地の調整と住宅の建築については全面的な長期計画をたて、しだいにこれを実施してゆく。生産に有利で、指導に便宜であるという原則にもとづき、小さな居住地は適宜に逐次合併してゆく。

計画にもとづいて住宅を新築するばあいは、公社が統一的に材料を準備し、労働者を派出する。社員のもとの住宅の煉瓦、瓦、木材類は、公社が必要におうじて逐次これをとりはずして使用する。新築の住宅は公社の所有とし、社員がこれに居住するばあい家賃を支拂う。家賃は家屋の維持と修理に必要な費用に相当する額とする。

第二十一條 公社は、大衆的な文化、娯楽および体育活動をくりひろげ、これをつうじて身心ともに健全な共産主義的公民を養成する。公社には図書館、劇場、映写班、大隊にはクラブ、業余劇團、コーラス隊、球技チーム、生産隊には小型の新聞雑誌閲覧室とラジオ聴取設備

をそれぞれ逐次に設けてゆく。

第二十二條 公社の毎年の総収入は、つぎの各項目にしたがつて分配しなければならない。

- 一、当該年度についてやした生産費をさしひく
- 二、公共財産の減價償却費をさしひく
- 三、国家へ納税する
- 四、社員への食糧の支給にあてる
- 五、社員への基本給と奨励金の支拂にあてる
- 六、教育、衛生、文化その他の福祉事業のための福祉基金をのこす。福祉基金は一般に総収入の五パーセントをこえてはならない。

七、残額はすべて積立金とし、予備と拡大再生産（交通の面における建設をふくむ）にあてる。公社は、一年ないし二年分の食糧の備蓄と必要な賃金支拂のための基金をしいにもち得るようにならねばならない。

収益の分配は、再生産の急速な拡大を保証することをもつて原則とする。生産の発展にとも

ない、賃金を年々ひきあげてゆくべきであるが、賃金上昇率は生産増加率より低くしなければならぬ。社員の平均賃金（食糧の給与をふくむ）の水準が、富裕中農の生活水準にたつしてのちは、賃金上昇速度をゆるめて、できるだけはやく工業を發展させるようにし、農業の機械化と農村の電化を実現するようにしなければならない。

第二十三條 公社は、計画的管理を実施し、国家の経済計画と公社自身の具体的状況にもとづいて、長期の建設計画と年度の計画を作成する。公社は各生産大隊、工場、鉱山、牧場、林場、生産支出計画、労働力配分計画をきめて、厳密な生産責任制をうちたて、賞罰の制度を合理的に実施する。

生産計画、基本建設計画、生産物販賣計画、商品流通計画、機械設備購入計画、金融計画、賃金計画を作成したばあい、国家の計画機関と各関係部門から均衡性について審査をうけたうえでこれを実行に移すようにしなければならない。

97 第二十四條 公社は民主的管理を実施する。公社、大隊、生産隊、工場、鉱山、林場、牧

場、トラクター隊、学校、病院、商店、銀行、食堂、民兵の組織では、すべて生氣にみちた經常的な民主的生活を確立しなければならない。独立採算制をとる各組織の財務收支の帳簿と奨励金の分配一覽表は、定期的に公表しなければならない。すべての管理人員は、できるだけ生産労働に参加しなければならない。大衆を動員して、大字報で批判と自己批判、表彰と提案をおこなわせ、活動のさまざまな欠点をたえず克服してゆく。

第二十五條 公社は勤儉をむねとして公社の運営をおこなうという原則を實行し、社員を動員して生産につとめ、公社自身の力を十分にいかし、さまざまな困難を克服してゆかなければならない。節約につとめ、生産原價をひき下げ、見栄と浪費に反対するほか、非生産的な設備と建築のうち手輕なものでも間にあうばあいは手輕に間にあわせるべきである。

第二十六條 公社は、嚴密な財務管理制度をつくらねばならない。独立採算制をとる各組織はすべて遲滞なく收支予算をつくり、金錢出納の制度と手續をまもり、定期的に決算をおこなわなければならない。

公共財産はすべて責任者をきめて保管にあたらせなければならない。無責任のため公共財産

に損失をあたえたものについては、公社は批判または処分をくわえるべきである。汚職、窃盜または公共財産を破壊したものは嚴重に処分し、とくに問題の大きいものは上級の司法機關に申請して法律上の処分をくわえる。

(付) 販賣購買部と信用部についての第二の方案

第七條 公社には、販賣購買部を設ける。販賣購買部は、国营商業の指導のもとに、全社の生産物の販賣と必需品の供給にあたる。販賣購買部の業務経営上の基本方式は、国营商業のための代理買付、代理販賣をおこなうことである。買付と販賣の價格については、国营商業機關の規定を嚴守しなければならない。代理買付、代理販賣の手数料は、支出をさしひいたのちにいくらか利益がのこるといふ原則にしたがい、国营商業機關がこれを定める。公社が国家の統一買付と統一買入の任務を完遂したあとの残りの生産物は、販賣購買部がその公社の範囲内で販賣してもさしつかえない。ただし、販賣する量と價格は国营商業機關が査定する。国家が買付または供給することのできないある種の小口商品は、国营商業機關の承認をえたうえで、販賣購買部がこれを社外に賣りさばるか、または買い付けることができる。

販賣購買部は独立採算制をとり、その損益は公社が一括して処理する。販賣購買部の資金には、まず社員がいぜんに販賣購買協同組合へおさめた出資金をあてるが、もしこれでありなれば、さらに公社が方法をこうして補充する。これらの出資金にたいしては利益配当をおこなわない。

販賣購買部は、各大隊に分所をおき、わりに離れている地点にはいくつか小賣部をもうけ、ひろく大衆の便宜をはからなければならない。国営商業は、適当な地点に卸部をもうけ、小賣店はしだいに廃止する。

販賣購買部は、縣の販賣購買協同組合に加入して、その組合員となる。

第八條 公社には、信用部を設ける。信用部は、国家銀行の業務指導のもとに、社員の預金、貸付および公社の資金調整などの業務を取り扱う。信用部は同時に人民銀行の代理店でもあり、銀行にかわつて貯蓄、貸付などの業務を取り扱い、規定の手数料をとる。

信用部は独立採算制をとり、その損益は公社が一括して処理する。信用部の資金には、まず社員がいぜんに信用協同組合へおさめた出資金をあて、もしこれでありなれば、さらに公社

が方法をこうして補充する。

信用部は、各大隊に分所をもうけると同時に、わりに離れている地点には出張所をおき、ひろく大衆の便宜をはからなければならない。

信用部と各分所は、公社と各大隊の金庫であり、大口の現金の出納にはすべて信用部と各分所の手を通じなければならない。国家銀行の指導のもとに、信用部は、公社と他の経済組織とのあいだ、公社内部の独立採算制組織相互のあいだでは非現金決済をおこなうが、社員にたいしては非現金決済をおこなわない。

(一九五八年九月四日づけ『人民日報』より)

(注) 統一買付Ⅱ一九五三年、政府が食糧、食用油、榨油作物、綿布、綿花の統一買付、統一販賣を実施することについての指示にふくまれる物資をさす。統一買入Ⅱ右にのべた統一買付、統一販賣を指示された物資以外のもので、政府または地方当局が国内市場あるいは地方市場の物資の供給状態にもとづいて統一買入を決定した物資をさす。

人民公社をいかに設立するか

——「衛星」公社の定款にちなんで

(一九五八年九月四日『人民日報』社説)

本日、本紙は河南省遂平縣の「衛星」人民公社の暫行定款(草案)をかかげた。この定款を総合的に研究してみると、農業生産協同組合とくらべて、この人民公社にはつぎのような特徴のあることがわかる。

一、人民公社は農業生産協同組合とはちがつて、單純な農業生産組織ではないし、またたんに農業、林業、牧畜業、副業、漁業の全面的な發展をはかるだけでもない。公社は都市や工業地区とおなじように同時に工業をもおこして、都市と農村の差異、工業と農業の差異をしないでなくしてゆく。

生産のほか、公社はみづから商業(交換)や信用業務(銀行業務)をも經營する。

經濟活動のほか、公社はなお文化・教育(小学校、中学校、専門学校、科学の研究などをふくむ)事業をもおこして、社員をのこらず高い文化水準をもつ人間にそだてあげ、頭腦労働と肉體労働の差異をしないでなくしてゆく。

公社はまた全人民の武裝を實行する。適齡の青年男子と復員した退役軍人は民兵を組織し、たえず軍事教練をおこない、国家からあたえられた任務をひきうける。

要するに、人民公社は工業、農業、商業、文化・教育、軍事の統一体であり、政治、經濟、文化、軍事の各方面にわたる建設の任務をになつてゐる。

二、公社は郷の範圍で設立する。その規模は当然もとの農業協同組合よりはるかに大きい。この公社は二十七の農業協同組合が合併したもので、あわせて九千戸あまりからなる。その結果、人力、物力、財力の集中的な使用と統一的な調整がはるかにたやすくおこなわれるので、農地の基本建設や工業建設をいつそう急速にすすめ、多角經營と各方面の事業をいつそう急速に發展させることができ、また、農村の電化と機械化の速度をぐつと早めることができる。こ

のような規模をもつ公社がなければ、いろいろな建設の面で、範圍のうえでの制約をうけることになろう。

三、郷と公社は合体する。一郷に一社ということであつてみれば、郷と公社が分立する必要はない。したがつて、郷人民代表大会の代表は公社社員代表大会の代表をかね、郷人民委員会の委員は公社管理委員会の委員をかね、正・副の郷長は正・副の社長をかね、公社管理委員会の事務機構は郷人民委員会の事務機構をかねる。こうしたことは、公社が實際上社会主義の基礎単位であることを物語るものである。

四、所有制の面で一段と「公有」の方向へ発展する。自家用の土地、私有の敷地、役畜、林木などはすべて段取りをおつて公社の公有にきりかえる。また、しばらく私有のままのこしておく少数の家畜や家禽もやがて段取りをおつて公有にきりかえてゆく。こうして、単独経営経済のこりかすは、さらに一段となくなつてゆく。生産関係のいつそうの発展は、社会的生産力の発展にいつそう有利であり、国民経済ぜんたいの発展にいつそう有利である。

五、収益の分配と労働の報酬の面では、生産の発展にともない、労働日におうじて利益を分配する制度をしいに賃金制（奨励金をふくむ）へきりかえてゆく。食糧の生産が高度に発展し、全社員がこぞつて賛成するという条件が熟せば、食糧給与制を実施する。こうした制度をとれば、社員の収入と生活はいつそう安定したものとなり、公社の拡大再生産もいつそう容易となる。この制度はさらにまた工業、交通運輸事業、教育・科学・文化事業の発展に役だち、福祉事業の発展に役だつ。

六、生活がいつそう集團化し、社員の福祉事業が急速に発展する。これには、生産の便宜をはかり婦人の労働力を解放するために共同食堂、託児所、裁縫班その他を設けること、社員の健康を確保するために医療機構や療養所を設けること、みなし子、やもめ、老人、病弱者、不具者の生活を保護し面倒をみるために幸福院を設けること、風致化の見地から新しい住宅を計画的に建設することなどがふくまれる。家事の労働が社会化し、社員の生活条件と居住条件が大きく改善され、文化・娯楽、体育が発展すれば、農村の様相は徹底的にあらためられるだろう。

こうしたことは、すべて、社会主義の建設と生産力の発展にきわめて有利である。だから、

また革命的、進歩的なのであつて、いく万、いく億の人民から熱烈によるこび迎えられているのである。

「衛星」公社は多くの面で、いまのところなりに先進的な公社のうちの一つの典型といふことができる。こうした公社は河南省にも全国の各省にもすくなくないし、ある面ではこれよりもつと先進的な公社もある。が、要するに、「衛星」人民公社の定款を見れば、人民公社の一應の輪郭をつかむことができる。だから、この定款は推薦する価値があるのである。ただし、各地で公社をつくるばあいには、それぞれの問題についてかならずその地の具体的な条件から出発し、とくにその地の大衆の自覚と自発的な意志から出発しなければならぬ。むりやりに型にはめこんだり、むりやりに「衛星」公社その他の先進的な公社に「右へならえ」させたりしてはならない。これは当面の人民公社運動における一つの重要な原則問題である。

つきに、当面の公社の規模、公社設立のやり方、経済政策の諸問題についていささか意見をのべ、各地の参考に供したい。

一つは公社の規模の問題である。いまのところ、ふつう一郷に一社とし、一万人から二万戸ほどの公社が適当と思われる。面積が廣く、人家のまばらな郷では、一つの社が二万人よりすくなくともいいし、また一つの郷にいくつかの公社を設けてもかまわない。ところによつては、自然の地形条件と生産発展上の必要にもとづいて、いくつかの郷を合併して一つにし、戸数が一万戸にたつするような公社をつくつてもよい。なかには一、二万戸以上の大きな公社を設立しているところもある。こういう大きな公社は状況に應じて試験的につくつてみてよいが、いまのところまだ普遍的に提唱するのは妥当でない。

人民公社がいつその発展をみる趨勢では、縣ごとに連合社を組織することになるであろう。だから、ますます、人民公社の分布について、縣ごとに計画をたて、合理的に配置すべきである。連合社という名称は内容にびつたり合致していて、なかなかいいように思われる。げんざい、総公社とか縣公社といつているところもあるが、べつに反対するにはおよばない。

公社の規模が拡大するのは、農業、林業、牧畜業、副業、漁業、さらにまた、工業、農業、商業、文化・教育、軍事が総合的に発展するので、公社の管理機構も適宜に分担をきめる必要がある。組織を簡素化するとともに幹部を生産から脱離させないという原則にもとづい

て、責任を分担するいくつかの部門を設けなければならない。同時に、行政と社務の合体を実行して、郷人民委員会が社務委員会をかね、郷の共産党委員会が公社の共産党委員会をかねるものとする。

第二は、小さな組合が合併して大きな組合になり、これを人民公社にきりかえてゆくべきのやり方と段取りの問題である。小さな組合が合併して大きな組合になり、これを人民公社にきりかえてゆくことは、目下のところ、廣はん大衆の共通の要求である。貧農と下層中農はこれをだんこ擁護しており、大部分の上層中農もこれに賛成している。われわれは、貧農と下層中農に依拠し、十分に大衆をたちあがらせ、大いに意見をのべあい、論議をくりひろげ、合併による大きな組合の設立とその公社へのきりかえに賛成する大部分の上層中農と團結し、他の一部の上層中農の動搖を克服し、地主、富農のデマや破壊活動をあばき、これを撃退し、廣はん農民の思想解放と自覚と自発的な意志を土台として合併による大きな組合の設立とその公社へのきりかえを実現するようにし、おしつけや命令によるやり方を防止しなければならぬ。段取りについて言えば、合併して大きな組合になり、これを公社にきりかえてゆくばあ

い、もちろん一氣にやりとげるにこしたことはない。だが、一氣にやりとげられないばあいは、二つの段階にわけてやつてもよいのであつて、けつして無理をしたり、あせつたりしてはならない。ふつう二つの段階にわけてやれば順調にはこぶであらう。この方法は表面的にはおそいようでも、実際にはかえつて早くなる。なぜなら、先に骨組をつくるのはわりに容易であるし、骨組ができていれば公社の規模にもとづいて秋の收穫と耕作、冬期の農地の基本建設をすすめることが可能であり、これらの活動をすすめるなかでさらに公社のその他の問題を研究するようになれば仕事はずつとやりやすいからである。各縣は、まずどこかで試験的にやつてみたらうで、しだいにおしひろめてゆくようにすべきである。もし大衆の要求が切実であれば、試験をやりながらこれをひろめてゆくようにしてもよい。こうしてはじめて大衆の積極性をくじかないようにすることができるのである。

合併して大きな組合になり、これを人民公社にきりかえてゆくにあつては、かならず当面の生産と緊密に結びつける必要がある。このさい、たんに当面の生産に影響をおよぼしてはならないだけでなく、この運動が生産のいつそこの躍進をうながす大きな力となるようにしなけ

ればならない。そのため、運動の初期には「上部を変動させても下部は変動させない」方法をとる。つまり、まずもとの小さな組合が連合して大きな組合の管理委員会を選出し、これによつて機構を確立し、統一的に仕事の計画をたてる。もとの小さな組合は耕作区または生産隊にあらため、もとの生産組織と管理制度はしばらく動かさず、もとの通りに経営する。そして、合併し調整すべきものと合併のさい解決すべき具体的な問題はすべて、後日しだいに合併し、しだいに調整し、しだいに解決してゆき、生産に影響をおよぼさないようにする。これが二つの段階にわけてやるばあいの具体的な措置である。もう一つのやり方は、まず合併して数百戸の中型の組合になり、後日さらに一万人または一万戸からなる公社にきりかえてゆくのであつて、こうした段取りをとつてもかまわない。

公社の規模の大小、合併して大きな組合になりこれを公社にきりかえてゆくばあいの速度、そのやり方、段取りなどは、いづれもその地の状況にもとづいてきめなければならぬ。ただし、秋の收穫前または收穫後に合併するにしても、あるいは今年の冬か來年の春に合併するにしても、いまからすぐ、合併を予定している一部の小さな組合の相互の連絡をとり、いつしよ

に相談しあい、秋の收穫後の農地の基本建設を統一的に計画し、來年度のよりいつその大豊作をかちとるようさまざまの準備を統一的にとのえなければならぬ。

第三は、組合を合併するさいの經濟政策と經濟制度の諸問題である。組合の合併にさいしては、ブルジョア思想の強い者にあやつられた少数の組合がこの機会に自己本位にはしり、合併をひかえて共同積立金をまつたく残さないか、わずかしが残さず、組合員への過分な拂戻もしくは全額拂戻をおこなつたりするようなことがあるかもしれないので、こういうことを防止するために教育をつよめなければならぬ。だが、その反面、いくつかの組合が合併して大きな組合をつくるばあいには、農業協同組合の基礎がおなじではないのだから、それぞれの公共財産、組合内、組合外の債務などが、まつたくおなじではありえないということもかならず心得ておかなければならない。合併にさいしては幹部と大衆を共產主義の精神で教育して、こうした差のあることをみとめさせるようにし、こまかくそろばんをはじいたり、過不足を調整したりするような方法をとらず、些細なことにこだわらないようにしなければならぬ。

人民公社の設立にあつて、自家用の土地、わずかな果樹、出資金等々の問題はふつういそ

いで処理する必要はないし、また明文で規定するにもおよばない。一般に、自家用の土地は合併のさい集團経営に移されることになる。わずかな果樹はしばらく私有のままにしておいて、後日あらためて処理してもよい。出資金等その他はなお、一、二年を経過して、生産が発展し収入がふえ、人びとの自覚が高まるにつれて自然に公有となるようにする。

人民公社の成立後、集團的所有制をいそいで全人民的所有制にあらためる必要はない。一般には、いまのところまだ集團的所有制をのこしておいた方がよい。こうすれば所有制をあらためるさいに不必要な面倒がおきるのをさけることができる。實際上、人民公社の集團的所有制のなかには、すでに全人民的所有制の要素が若干ふくまれている。こうした全人民的所有制はたえまない発展のなかでひきつづき増大してゆき、しだいに集團的所有制にとつてかわる。

集團的所有制から全人民的所有制への移行は、一つの過程である。地方によつてはわりにはやく、三、四年でおわるところもあるが、また地方によつてはわりにおそく、五、六年あるいはもつと長い期間を要するところもある。全人民的所有制に移行しても、国营工業とおなじように、その性質はやはり社会主義的なものであつて、各人はその能力におうじて働き、その労働

におうじて報酬を受けとる社会主義から、各人はその能力におうじて働き、その必要におうじて受けとる共産主義へ移行するには、もつと長い時間を要する。

人民公社の成立後、生産に不利な影響をおよぼすのをさけるため、元來の分配制度をいそいであらためる必要もない。具体的な条件をもととして、条件の熟しているところでは賃金制にきりかえてもさしつかえないし、条件がまだ熟していないところではなおしばらく元來の請負・奨励金制度や基準作業量にたいする出來高拂いなど、労働日によつて報酬を計算する制度を採用し、条件が熟してのちにあらためてこれを変更するようにしてもよい。

中国の人民公社化運動

1958年11月 初版発行

出版者 外文出版社

中華人民共和國

北京阜成門外百万莊

番号: (日)3050-168

